

大学等名	学習院女子大学
プログラム名	データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

下記データサイエンス教育プログラム科目から、必修科目の3科目6単位、選択必修科目の中から3科目6単位以上、合計6科目12単位以上を取得すること。
 必修科目：情報リテラシー(または情報処理I※)、表計算ツールとデータ分析(または情報処理II※)、データサイエンス・AI基礎
 選択必修科目：プログラミング(または情報処理IV※)、デジタルコンテンツ制作(または情報処理III※)、データサイエンス・AI演習、基礎統計学、社会調査法
 ※データサイエンス教育プログラムは、令和5年度から開始しているが、令和4年度以前の入学者にも※の科目名については読み替えて履修を認定する。

必要最低科目数・単位数

6 科目

12 単位

履修必須の有無

令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報リテラシー	2	○	○	○					
表計算ツールとデータ分析	2	○	○	○					
データサイエンス・AI基礎	2	○	○	○					
デジタルコンテンツ制作	2		○	○					
データサイエンス・AI演習	2		○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報リテラシー	2	○	○	○					
表計算ツールとデータ分析	2	○	○	○					
データサイエンス・AI基礎	2	○	○	○					
デジタルコンテンツ制作	2		○	○					
基礎統計学	2		○	○					
データサイエンス・AI演習	2		○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報リテラシー	2	○	○	○					
表計算ツールとデータ分析	2	○	○	○					
データサイエンス・AI基礎	2	○	○	○					
データサイエンス・AI演習	2		○	○					
社会調査法	2		○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報リテラシー	2	○	○	○					
表計算ツールとデータ分析	2	○	○	○					
データサイエンス・AI基礎	2	○	○	○					
データサイエンス・AI演習	2		○	○					
社会調査法	2		○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
表計算ツールとデータ分析	2	○	○	○	○						
データサイエンス・AI基礎	2	○	○	○	○						
プログラミング	2		○	○	○						
データサイエンス・AI演習	2		○	○	○						
基礎統計学	2		○	○	○						
社会調査法	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
プログラミング	4-1統計および数理基礎	表計算ツールとデータ分析	4-8データ活用実践(教師あり学習)
データサイエンス・AI演習	4-1統計および数理基礎	社会調査法	4-8データ活用実践(教師あり学習)
プログラミング	4-2アルゴリズム基礎	基礎統計学	4-8データ活用実践(教師あり学習)
社会調査法	4-2アルゴリズム基礎	データサイエンス・AI基礎	4-8データ活用実践(教師あり学習)
プログラミング	4-3データ構造とプログラミング基礎	データサイエンス・AI演習	4-8データ活用実践(教師あり学習)
基礎統計学	4-3データ構造とプログラミング基礎	社会調査法	4-9データ活用実践(教師なし学習)
社会調査法	4-3データ構造とプログラミング基礎	基礎統計学	4-9データ活用実践(教師なし学習)
表計算ツールとデータ分析	4-4時系列データ解析	データサイエンス・AI基礎	4-9データ活用実践(教師なし学習)
データサイエンス・AI演習	4-5テキスト解析	データサイエンス・AI演習	4-9データ活用実践(教師なし学習)
データサイエンス・AI演習	4-6画像解析	デジタルコンテンツ制作	その他
プログラミング	4-7データハンドリング	社会調査法	その他
データサイエンス・AI演習	4-7データハンドリング		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第2回)、「デジタルコンテンツ制作」(第2回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回) データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「情報リテラシー」(第12～14回)、「表計算ツールとデータ分析」(第7回)、「データサイエンス・AI基礎」(第2回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回) 第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第2回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回) 複数技術を組み合わせたAIサービス「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第2回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回) 人間の知的活動とAIの関係性「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第2回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回) データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第2回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回)
	1-6 AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「情報リテラシー」(第12～14回)、「表計算ツールとデータ分析」(第12回)、「データサイエンス・AI基礎」(第7回)、「デジタルコンテンツ制作」(第2～3・8回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回) AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第7回)、「デジタルコンテンツ制作」(第5・10回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報リテラシー」(第11～14回)、「表計算ツールとデータ分析」(第12回)、「データサイエンス・AI基礎」(第3回)、「基礎統計学」(第4・8回)、「データサイエンス・AI演習」(第2・6・9回) 1次データ、2次データ、データのメタ化「表計算ツールとデータ分析」(第12・13・14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第3回)、「基礎統計学」(第8回) 構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「表計算ツールとデータ分析」(第12回)、「データサイエンス・AI基礎」(第3回)、「デジタルコンテンツ制作」(第2～14回)、「データサイエンス・AI演習」(第2～5・10～14回) データ作成(ビッグデータとアノテーション)「表計算ツールとデータ分析」(第13・14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第3回) データのオープン化(オープンデータ)「表計算ツールとデータ分析」(第12回)、「データサイエンス・AI基礎」(第3回)
	1-3 データ・AI活用領域の広がり「データサイエンス・AI基礎」(第4回)、「デジタルコンテンツ制作」(第2回) 研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「表計算ツールとデータ分析」(第12回)、「データサイエンス・AI基礎」(第4回)、「デジタルコンテンツ制作」(第2・3・8回) 仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンス・AI基礎」(第4回)、「デジタルコンテンツ制作」(第1～15回)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「情報リテラシー」(第11・12回)、「表計算ツールとデータ分析」(第9～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第5回)、「データサイエンス・AI演習」(第・・・回)、「基礎統計学」(第1～15回) データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「表計算ツールとデータ分析」(第5回)、「データサイエンス・AI基礎」(第5回)、「データサイエンス・AI演習」(第2～5・10～14回) 非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「データサイエンス・AI基礎」(第5回)、「データサイエンス・AI演習」(第2～5・10～14回) 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス・AI基礎」(第5回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回) 認識技術、ルールベース、自動化技術「データサイエンス・AI基礎」(第5回)、「データサイエンス・AI演習」(第10～14回)
	1-5	データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「表計算ツールとデータ分析」(第9～11回)、「データサイエンス・AI基礎」(第6回)、「社会調査法」(第1～15回) 流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「データサイエンス・AI基礎」(第6回)、「社会調査法」(第2・3回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回)、「社会調査法」(第2・3回) 個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回)、「社会調査法」(第14回) データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回)、「社会調査法」(第14回) AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13回)、「データサイエンス・AI演習」(第6回)、「社会調査法」(第14回) データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13回)、「データサイエンス・AI演習」(第6・15回)、「社会調査法」(第14回) AIサービスの責任論「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13回)、「データサイエンス・AI演習」(第6・15回)、「社会調査法」(第14回) データ・AI活用における負の事例紹介「情報リテラシー」(第12～14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13回)、「データサイエンス・AI演習」(第6・15回)、「社会調査法」(第14回)
	3-2	情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「情報リテラシー」(第13回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13,14回)、「データサイエンス・AI演習」(第6・15回)、「社会調査法」(第14回) 匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報リテラシー」(第13回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13,14回)、「データサイエンス・AI演習」(第6・15回)、「社会調査法」(第14回) 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報リテラシー」(第13回)、「データサイエンス・AI基礎」(第13,14回)、「データサイエンス・AI演習」(第6・15回)、「社会調査法」(第14回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンス・AI基礎」(第8回)、「プログラミング」(第2・11回)、「基礎統計学」(第14回)、「基礎統計学」(第1～4回) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「表計算ツールとデータ分析」(第8回)、「データサイエンス・AI基礎」(第1～15回)、「基礎統計学」(第6回) 代表値の性質の違い「データサイエンス・AI基礎」(第8回)、「基礎統計学」(第4～7回) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「データサイエンス・AI基礎」(第8回)、「基礎統計学」(第3・6回) 観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンス・AI基礎」(第8回)、「基礎統計学」(第4～7回) 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ「データサイエンス・AI基礎」(第8回)、「基礎統計学」(第4～7回) 相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「表計算ツールとデータ分析」(第9回)、「データサイエンス・AI基礎」(第8回)、「基礎統計学」(第10回) 母集団と標本抽出「表計算ツールとデータ分析」(第7回)、「データサイエンス・AI基礎」(第8回)、「データサイエンス・AI演習」(第2回)、「基礎統計学」(第8回)、「社会調査法」(第1～14回) クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「表計算ツールとデータ分析」(第8～10回)、「データサイエンス・AI基礎」(第8回)、「基礎統計学」(第9・10回) 統計情報の正しい理解「データサイエンス・AI基礎」(第8回)、「基礎統計学」(第14回)、「社会調査法」(第1回)
	2-2	データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップ)「表計算ツールとデータ分析」(第5回)、「データサイエンス・AI基礎」(第9回)、「データサイエンス・AI演習」(第5～12回)、「基礎統計学」(第5～14回)、「社会調査法」(第10～12回) データの図表表現(チャート化)「表計算ツールとデータ分析」(第5回)、「データサイエンス・AI基礎」(第9回)、「基礎統計学」(第5～14回)、「社会調査法」(第13回) データの比較「表計算ツールとデータ分析」(第13・14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第9回)、「データサイエンス・AI演習」(第5～12回)、「プログラミング」(第10～14回)、「基礎統計学」(第1～15回)、「社会調査法」(第13回) 不適切なグラフ表現「表計算ツールとデータ分析」(第13・14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第9回)、「基礎統計学」(第13回) 優れた可視化事例の紹介「表計算ツールとデータ分析」(第13・14回)、「データサイエンス・AI基礎」(第9回)、「基礎統計学」(第13回)

	2-3	データの集計(和、平均)「表計算ツールとデータ分析」(第2回)、「データサイエンス・AI基礎」(第10回)、「データサイエンス・AI演習」(第2～5回)、「基礎統計学」(第6・8回)、「社会調査法」(第10回) データの並び替え、ランキング「表計算ツールとデータ分析」(第6回)、「データサイエンス・AI基礎」(第10回)、「データサイエンス・AI演習」(第2～5回)、「基礎統計学」(第4～12回) データ解析ツール(スプレッドシート)「表計算ツールとデータ分析」(第1～11回)、「データサイエンス・AI基礎」(第10回)、「プログラミング」(第10～14回)、「基礎統計学」(第10～12回) 表形式のデータ(csv)「表計算ツールとデータ分析」(第1～11回)、「データサイエンス・AI基礎」(第10回)、「基礎統計学」(第10～12回)
--	-----	---

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データサイエンスを学ぶことの楽しさを知り、理解を深め、使いこなすことのできる力を育成する。情報学や統計学をもとに、その融合領域における学びで、実践を交えながらデータを読み解き、分析する手法を学び、様々な分野においてデータ活用とAIの利活用の視点をもてるようになることを目標とする。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

プログラムの履修者数等の実績について

- ①プログラム開設年度 令和5 年度
②大学等全体の男女別学生数 男性 0 人 女性 1588 人 (合計 1588 人)
③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学 定員	収容 定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数 合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
国際文化交流学部	1,588	385	1,440	556	11											556	39%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	1,588	385	1,440	556	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	556	39%

大学等名 学習院女子大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 44 人 (非常勤) 147 人

② プログラムの授業を教えている教員数 7 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 丸山 信人

(役職名) 教授

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

教務委員会

(責任者名) 佐藤 琢三

(役職名) 委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

学習院女子大学教務委員会規程

⑥ 体制の目的

委員会は、学習院女子大学(以下「本学」という。)における次の事項を審議する。

- 一 本学の授業科目全般の管理運営及び計画に関する事項
- 二 科目担当者の人事に関する事項
- 三 授業運営のために必要な予算に関する事項
- 四 その他、委員会が必要と認めた事項

⑦ 具体的な構成員

教務部長、各学科から選出された委員各1名及び教務部長が指名する委員2名をもって組織する。

- 教務部長.....佐藤琢三(教授)
- 日本文化学科選出.....橋本彩(准教授)
- 国際コミュニケーション学科選出.....正本忍(教授)
- 英語コミュニケーション学科選出.....萱忠義(教授)
- 教務部長指名(共通科目).....澤田知香子(教授)
- 教務部長指名(研究科).....櫻井大三(教授)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	39%	令和6年度予定	60%	令和7年度予定	80%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	1,440
具体的な計画					
令和5年度より、本校の全学生が参加可能なプログラムとして、「データサイエンス教育プログラム」制度を導入し、修了条件を満たした学生に対して「データサイエンス教育プログラム修了証」を発行することにより、データサイエンス教育プログラムへの参加の動機付けを行うとともに、全学生に対するプログラムの周知のための「履修ガイダンス」を実施する。 また、特別授業として、全学生が参加可能な形式の産学連携による「プログラミングワークショップ」や「AIワークショップ」を実施し、本プログラムへの周知と関心を上げる取り組みを行う。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「データサイエンス教育プログラム」は、本校の全学生に対して提供している「情報技術科目群」と連動したプログラムとして位置づけられている。また、多様化するキャリアデザインに適合するように、必修科目と選択科目との組み合わせによって開講している。 また、パソコン等を利活用した少人数教育を実現するために、同一の内容の授業科目を複数開講し、希望する学生には全員が履修できる体制と整えている。具体的には、必修科目である「情報リテラシー」と「表計算ツールとデータ分析」は、10の授業を同一内容で開講している。 また、選択科目としては、「データサイエンス・AI演習」「プログラミング」「基礎統計学」「社会調査法」等の5科目から3科目を選択することができるようにしている。
--

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

履修登録ガイダンスにおいては、専門のガイダンスとして、オンデマンド動画形式で、「データサイエンス教育プログラム」の主旨と意義及びその授業内容を、全学生が閲覧できるように大学内公式サイトで展開している。 また、全学生に配布する「学生便覧」に、「データサイエンス教育プログラム」の新設のお知らせページを特集し、同時に、情報サポートセンターのコーナーに、本プログラムのパンフレットとポスターを作成・設置し、周知を図っている。 さらに、さらに「新入生ガイダンス」の履修動画で説明するとともに、模擬授業として、「データサイエンス・AIの未来」の授業を開講し、本プログラムを体験する機会を提供している。
--

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「データサイエンス教育プログラム」の授業の第1回で、本プログラムのオリエンテーションを実施している。特に、「データサイエンス・AI基礎」の授業においては、履修希望の学生及び履修登録をした学生に対して、授業外でのオフィスアワーを設けて、質問に応じる取り組みをしている。

また、情報サポートセンターには、学生からの質問やお問い合わせにお答えできるよう、情報科目司書が常設されており、本プログラムの履修・修得のサポートを実施している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

「データサイエンス教育プログラム」の専任教員が、授業時間外のオフィスアワー及びメール窓口を設けて、随時、学習指導・質問を受け付けている。また、本プログラムは、すべて、大学内のLMSを利用しており、そこからも、質問を受け付けて、確認・回答ができる体制で取り組んでいる。同時に、常設されている情報サポートセンターでも、随時、情報科目司書が、質問を受け付けることができる体制を整えている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教務委員会

(責任者名) 佐藤琢三

(役職名) 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	「データサイエンス教育プログラム」は、令和5年度から全学生に対して開始しているが、令和5年度の実績で履修率38.6%を達成している(大学全体の収容定員の学生が、データサイエンス教育プログラムの授業を1科目以上履修している)。また、選択必修科目において、前年までに実施していた同様の科目の履修人数と比較して、最大で218.1%の増加をしている。 本プログラムは、卒業までに修了条件を満たした学生に対して、修了証を発行する仕組みとなっているため、必修及び選択科目を1科目でも履修している学生数を「履修者数」とみなすと、順調に履修を進めている状況と判断できる。また、令和4年度以前に入学した学生に対しては、本プログラムの内6科目について、前年までの同様のシラバス内容の授業履修の読み替えを承認しているため、令和5年度の修了要件を満たした学生数は、11名である。
学修成果	令和5年度に、データサイエンス教育プログラムの学生履修者への授業アンケートの結果を分析すると、必須科目の平均満足度が81.3%、選択科目の平均満足度が81.1%、全科目の平均満足度が81.2%となっている。特に、このデータサイエンス教育プログラムのために新設した必須科目の「データサイエンス・AI基礎」の授業の満足度が、85.6%。選択科目の「デジタルコンテンツ制作」の満足度が87.1%と高い満足度をあげている。 また、同アンケートの結果によると、「この科目分野をさらに深く学びたいくなりましたか?」という設問に対して、全科目の平均で、87.2%となっており、さらにデータサイエンス・AIを学びたいという意欲をもっている。「この授業で新しい知識やものの考え方を得ることができましたか?」という設問に対しては、全科目の平均で、95.4%で、新しい知識を得ることができたという学修成果があげられている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	令和5年度に、本プログラムのために新設した科目の履修者への授業アンケートの結果を分析すると、良好な学修効果が得られている。特に、「データサイエンス・AI基礎」の授業においては、学生から「データサイエンスを学ぶことで、調査の目的に応じた観点でデータを観察することや、データの全体を俯瞰し、傾向を把握し、データの分類と分析を行い、次の施策を考えることが重要であり、創造力を用いて有用にデータを活用するよう実践していこうと考えるようになりました」などといった感想があげられ、前向きなデータサイエンス・AIの必要性の理解が得られている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	令和5年度に、本プログラムのために新設した科目の履修者への授業アンケートの結果を分析すると、良好な後輩等への推奨効果が得られている。特に、「データサイエンス・AI演習」の授業においては、学生から「この講義を受けていく中で、4年生としての集大成を意識するようになり、これからのデータサイエンスとAIの時代に向けて、データサイエンス・AIと教育の重要性が拡大し、より広い視野で知見を、社会人になっても主体的に学んでいくことを意識するようになりました。AIが進化していく中で、学び続けるだけでなく、その活用法を考え、その教育についても発信できる存在になりたいと考えます。また、後輩にも、この履修を薦めたいと思っています」などといった感想があげられました。さらに、教職に就く4年生からは、自分の生徒たちにも教えていきたいと前向きな意見も挙げられている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムへの履修への周知はもちろんであるが、「データサイエンス・AIが、今後の学生生活だけでなく、将来の社会での活動において、いかに重要な学びであるか」を、学生に理解していただくようなメッセージを、大学公式サイトで、継続的に伝えるように取り組んでいる。また、履修ガイダンス時のオンデマンド映像や、ポスター、パンフレット等での周知も継続的に行っている。また、データサイエンス教育プログラムの紹介ガイダンス映像の1年生の閲覧率は100%を実現している。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは、令和5年度からの実施のため、修了生の企業等での活躍状況はまだ調査できていない。ただし、本プログラムを修了した4年生の進路は、「大手ICT企業」「法律事務所」「大学院」「中学校教員」等に進学している。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	特別授業として、令和5年度には、IP企業とのコラボレーションにより「プログラミングワークショップ」を実施した。その企業からは、データサイエンス・AIの基礎的知識を学ぶこととともに、そのデータ分析から、新しい価値をつくる人材を育ててほしいとの要望もあった。これに応じるために、本学では、本プログラム以外でも特色ある授業（例：有識故実や香道等の日本伝統文化、キャリアデザインのためのフィールドワーク調査を行うインディペンデントスタディ、韓国の学生とのグループによる調査分析等）等と、今後連動して、データサイエンス・AIのスキルを活用し、社会に新しい価値を考えることを、授業内容に盛り込んだ特別授業の実施等を検討していく。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	データサイエンス・AIが身近なところですでに活用されている事例の調査から、データサイエンス・AIを学ぶことに楽しさを知るきっかけをつくりだし、AIによる新しいビジネスモデルの創出をはじめとする社会に新たに価値を考えるために、データ分析に基づく「アイデア・企画」の作り方を盛り込んだ授業を検討し、データサイエンス・AIを学ぶことの意義をより深めていくよう計画をしている。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	担当教員が異なっても授業水準が維持できるよう、主要科目においては、教材とツールの標準化を進める。特に、生成AIを活用して演習などは、今後、さらなる進化が考えられるため、基礎的知識については標準化を図り、同時に、応用的スキルについては、ハンズオン教材を体系的にライブラリー化して、学生が柔軟に選択し活用できる環境も整備していく。

講義コード	W230501501
授業科目	情報リテラシーA
副題	
担当者名	清水 将吾
開講期間	春学期
時間割	春学期 金曜日 1時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-101-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501502
授業科目	情報リテラシーB
副題	
担当者名	清水 将吾
開講期間	春学期
時間割	春学期 金曜日 2時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-102-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501503
授業科目	情報リテラシーC
副題	
担当者名	仁木 拓志
開講期間	春学期
時間割	春学期 月曜日 1時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-103-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと。(2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する。

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する。G-Portでの申し込みが必要である。

講義コード	W230501504
授業科目	情報リテラシーD
副題	
担当者名	丸山 信人
開講期間	春学期
時間割	春学期 水曜日 3時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-104-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は、WebClassまたはG-Portを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (各2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (各2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501505
授業科目	情報リテラシーE
副題	
担当者名	丸山 信人
開講期間	春学期
時間割	春学期 水曜日 4時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-105-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は、WebClassまたはG-Portを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (各2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (各2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501506
授業科目	情報リテラシーF
副題	
担当者名	加園 克己
開講期間	春学期
時間割	春学期 火曜日 1時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-106-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501507
授業科目	情報リテラシーG
副題	
担当者名	仁木 拓志
開講期間	春学期
時間割	春学期 月曜日 2時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-107-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと。(2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する。

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する。G-Portでの申し込みが必要である。

講義コード	W230501508
授業科目	情報リテラシーH
副題	
担当者名	加園 克己
開講期間	春学期
時間割	春学期 火曜日 2時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-108-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501509
授業科目	情報リテラシーI
副題	
担当者名	市川 収
開講期間	春学期
時間割	春学期 木曜日 3時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-109-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと。(2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する。

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する。G-Portでの申し込みが必要である。

講義コード	W230501510
授業科目	情報リテラシーJ
副題	
担当者名	市川 収
開講期間	春学期
時間割	春学期 木曜日 4時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-110-G

授業の到達目標

- ・学内コンピュータシステムを適切に利用できる.
- ・体裁の整ったレポート形式の文書・プレゼンテーション資料を作成できる.
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組みや情報社会の特性を理解し, 様々な場面でICT(情報通信技術)を積極的に活用できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して, 前半はソフトを活用した演習を中心に進める. 後半は基礎知識の習得を目的として座学を中心に進める.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	学内コンピュータの利用
第2週	Windowsの基本操作
第3週	学内メールとLMS(学習管理システム)の利用
第4週	文書作成ソフトの利用 (1): 基本操作, 書式設定
第5週	文書作成ソフトの利用 (2): 表の作成, 図の挿入
第6週	文書作成ソフトの利用 (3): アウトライン, スタイル
第7週	文書作成ソフトの利用 (4): 図表番号の挿入, 相互参照
第8週	プレゼンテーションソフトの利用 (1): 基本操作
第9週	プレゼンテーションソフトの利用 (2): アニメーション, スライドショー

第10週	OPACによる蔵書検索, Web検索
第11週	デジタル表現, コンピュータの構成
第12週	通信の仕組み, ネットワークの活用
第13週	情報社会における法と個人の責任
第14週	情報技術の発展と社会への影響
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

- ・情報倫理に関するe-Learning教材の実施(10%)
- ・OPACの利用法に関するWebテスト(10%)
- ・文書・プレゼンテーション資料作成の演習(40%)
- ・情報リテラシーに関する基礎知識の確認(40%)

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501601
授業科目	表計算ツールとデータ分析A
副題	
担当者名	清水 将吾
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 金曜日 1時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-111-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み、次回の授業内容について理解しておくこと。(2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は、インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する。

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する。G-Portでの申し込みが必要である。

講義コード	W230501602
授業科目	表計算ツールとデータ分析B
副題	
担当者名	清水 将吾
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 金曜日 2時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-112-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501603
授業科目	表計算ツールとデータ分析C
副題	
担当者名	仁木 拓志
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 月曜日 1時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-113-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501604
授業科目	表計算ツールとデータ分析D
副題	
担当者名	丸山 信人
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 水曜日 3時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-114-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は、WebClassまたはG-Portを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (各2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (各2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501605
授業科目	表計算ツールとデータ分析E
副題	
担当者名	丸山 信人
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 水曜日 4時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-115-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は、WebClassまたはG-Portを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (各2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (各2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501606
授業科目	表計算ツールとデータ分析F
副題	
担当者名	加園 克己
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 火曜日 1時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-116-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501607
授業科目	表計算ツールとデータ分析G
副題	
担当者名	仁木 拓志
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 月曜日 2時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-117-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501608
授業科目	表計算ツールとデータ分析H
副題	
担当者名	加園 克己
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 火曜日 2時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-118-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501609
授業科目	表計算ツールとデータ分析I
副題	
担当者名	市川 収
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 木曜日 3時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-119-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み, 次回の授業内容について理解しておくこと. (2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は, インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと. (2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する.

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する. G-Portでの申し込みが必要である.

講義コード	W230501610
授業科目	表計算ツールとデータ分析J
副題	
担当者名	市川 収
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 木曜日 4時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-120-G

授業の到達目標

- ・表計算ツールを使って、基本的なデータ処理やグラフ作成を行える.
- ・基本的なデータ分析手法について理解し、問題に応じて適切なデータ分析を実践できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PC教室を使用して、ソフトを活用した演習を中心に進める. 表計算ツールとしてExcelを使用する.
- ・連絡手段は原則としてWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	表計算ツールの基本操作, セルの書式設定
第2週	数式, 関数の適用
第3週	関数を使用した条件付きの計算
第4週	文字列の操作
第5週	グラフ作成
第6週	データの並べ替えと抽出
第7週	基本統計量
第8週	ヒストグラムと箱ひげ図
第9週	時系列分析
第10週	相関と回帰分析

第11週	クロス集計
第12週	総合演習 (1): オープンデータの活用
第13週	総合演習 (2): データ分析の実践
第14週	総合演習 (3): データ分析の実践
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・配布されたテキストを読み、次回の授業内容について理解しておくこと。(2時間)
- ・授業中に十分理解できなかった項目がある場合は、インターネット上の情報等も活用しながら次回までに解決しておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	各回の演習課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

テキストを配布する。

参考書

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する。G-Portでの申し込みが必要である。

講義コード	W370101101
授業科目	データサイエンス・AI基礎
副題	
担当者名	丸山 信人
開講期間	春学期
時間割	春学期 水曜日 2時限 228
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-001-D

授業の到達目標

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活や仕事の間等で使いこなすことができる基礎的知識を身に付けることを目標とする。また、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、主体的にそこから新たな知見を引き出し、活用できるようになることを目標とする。

授業の内容及び授業の方法

数理・データサイエンス・AIの基礎的知識と、その利活用領域の広がり事例をもつて説明し、技術概要についての解説を行う。また、実データあるいは模擬データを用いた講義を行う。学生は、数理・データサイエンス・AI利活用事例を調査し発表するグループワーク等を行う。

授業計画

実施週	内容
第1週	オリエンテーション(本授業の目的、構成、全体像等)
第2週	データ・AI利活用(1)「社会で起きている変化」
第3週	データ・AI利活用(2)「社会で活用されているデータ」
第4週	データ・AI利活用(3)「データ・AIの活用領域」
第5週	データ・AI利活用(4)「データ・AI利活用のための技術」
第6週	データ・AI利活用(5)「データ・AI利活用の現場」
第7週	データ・AI利活用(6)「データ・AI活用の最新動向」
第8週	データリテラシー(1)「データを読む」
第9週	データリテラシー(2)「データを説明する」

第10週	データリテラシー(3)「データを扱う」
第11週	データリテラシー(4)「データ分析の事例①」
第12週	データリテラシー(5)「データ分析の事例②」
第13週	データ・AIの留意事項(1)「データ・AIを扱う上での留意事項」
第14週	データ・AIの留意事項(2)「データを守る上での留意事項」
第15週	授業全体のリフレクションとまとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・社会の実際の数理・データサイエンス・AIを活用した事例を調査し、発表資料の作成をする。
- ・実際にデータを可視化する等、データ活用プロセスとその資料の準備・作成をする。
- ・それぞれの予習・復習で、各2時間程度を想定。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート	40 %	数理・データサイエンス・AIの基礎的な要素を理解し、それによる社会の展開のレポート等を評価する。
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)	60 %	数理・データサイエンス・AIの事例を調査し、グループワークでの発表等を評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

参考書

文系のためのデータサイエンスがわかる本,高橋威知郎(著),総合法令出版,2019,978-4-86280-706-9
 データサイエンティストの仮説思考,孝忠大輔(編著)、川地章夫、河野俊輔、鈴木海理、長城沙樹、中野淳一(著),翔泳社,2022,978-4-7981-7299-6

参考書コメント

必要に応じて、資料を配布する。

備考

連絡手段として、G-Portを使用する。

講義コード	W230501701
授業科目	デジタルコンテンツ制作
副題	情報デザイン企画、WEBサイト・動画コンテンツ制作
担当者名	丸山 信人
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 水曜日 2時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-121-G

授業の到達目標

デジタル社会においては、動画・WEB・電子出版等、様々なデジタルコンテンツが様々なメディアを通して情報発信をされている。そのデジタルコンテンツの基礎知識・技能を学ぶとともに、動画や画像やWEBサイト制作の加工技術、情報デザインの編集などを実習を通して理解を深めることを目標とする。

授業の内容及び授業の方法

デジタルコンテンツの制作方法を解説すると共に、実際にその制作ツールを使用してデジタルコンテンツを制作する。
また、情報デザインの基礎知識から企画方法や制作方法を理解し、自身で企画した、WEBサイトや動画コンテンツを編集し制作を行う。

授業計画

実施週	内容
第1週	オリエンテーション(本授業の目的、構成、全体像等)
第2週	デジタルコンテンツの企画とデータサイエンス(データ分析等)
第3週	情報デザインを考え、WEBサイトの企画を考える(企画書等)
第4週	基本図形で絵を描く、ロゴタイプをつくる
第5週	写真を加工・合成・編集する
第6週	写真・図形・ロゴタイプ等をレイアウト・編集して、WEBサイトをつくる(1)
第7週	写真・図形・ロゴタイプ等をレイアウト・編集して、WEBサイトをつくる(2)
第8週	情報デザインを考え、動画を企画する(企画書、絵コンテ&字コンテ等)
第9週	動画の素材を撮影する(スマートフォン・デジタルカメラ等)

第10週	動画の編集(1)
第11週	動画の編集(2)
第12週	動画の編集(3)
第13週	制作した動画の発表(1)
第14週	制作した動画の発表(2)
第15週	授業全体のリフレクションとまとめ

授業計画コメント

・制作ツールについては、illustrator、Photoshop、Premiere Pro等を利用する予定であるが、別のツールや別の方法に変更する場合もある。

準備学習(予習・復習)

・制作ツールの方法の解説は基本的項目に留めるため、詳細や創意工夫方法は各自で調査し進める。そのための予習・復習で、それぞれ各2時間程度を想定。
 ・デジタルコンテンツの作品のための映像素材等は授業外で撮影すること(4時間)。
 ・デジタルコンテンツの制作を各授業時間内に完成できなかった場合は、授業外時間に制作すること(6時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート	50 %	デジタルコンテンツの企画と制作作品を評価する。
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)	50 %	デジタルコンテンツの制作への取り組み(独自の創意工夫等)や発表等を評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

参考書

これからはじめるIllustrator&Photoshopの本,黒野明子(著),技術評論社,2021,初,978-4-297-12080-1

これからはじめるPremiere Proの本,佐藤太郎、中園洸太(著),技術評論社,2021,第2,978-4-297-12417-5

参考書コメント

備考

- 本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施するため、G-Portにて申し込みが必要となる。
- 連絡手段として、G-Portを使用する。

講義コード	W370102101
授業科目	データサイエンス・AI演習
副題	
担当者名	清水 将吾
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 水曜日 3時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-002-D

授業の到達目標

- ・データサイエンス及びAIの手法を用いて基本的なテキスト解析・画像解析を実行できる.
- ・AIの原理を理解し, 様々な領域での活用に関心をもてる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PCを使用して, 演習を中心に進める.
- ・Pythonプログラミング (Google Colaboratory) を主体とするが, プログラミング不要のノーコードツールも活用する.
- ・連絡手段にはWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	演習環境の構築
第2週	テキストマイニング (1): データの準備 (テーマパークのロコミ分析)
第3週	テキストマイニング (2): 自然言語処理の概要
第4週	テキストマイニング (3): 頻出単語と共起ネットワークの可視化
第5週	テキストマイニング (4): 分析と発表
第6週	AI技術の最新動向
第7週	AIのための数学 (1): 線形代数の基礎
第8週	AIのための数学 (2): 微分, 確率の基礎
第9週	ニューラルネットワークの構造と学習

第10週	画像分類 (1): データの準備 (犬猫画像の分類)
第11週	画像分類 (2): 画像の読み込み
第12週	画像分類 (3): 学習と精度の評価
第13週	独自の画像データを用いた画像分類 (1): データの準備と学習の実行
第14週	独自の画像データを用いた画像分類 (2): 発表
第15週	まとめ

授業計画コメント

準備学習(予習・復習)

- ・授業中の解説はポイントに留めるため、各週で扱う項目の基本的な概念は参考書等を用いてあらかじめ理解しておくこと。(2時間)
- ・演習を授業時間内に完成できなかった場合は、次回授業までに完成させておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験		
レポート	20 %	AIの基礎知識に関する演習問題
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)	80 %	テキストマイニングおよび画像分類の演習
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

講義テキスト及び機械学習実行のためのプログラムテンプレートを配布する。

参考書

データサイエンス入門 一文理融合ー, 小高, 知宏 / 小倉, 久和 / 黒岩, 丈介 (著), 共立出版, 2021
 AI/テラシーの教科書, 浅岡 伴夫 著 松田 雄馬 著 中松 正樹 著, 東京電機大学出版局, 2020
 Python3年生機械学習のしくみ ー体験してわかる! 会話でまなべる!ー (3年生), 森, 巧尚 (著), 翔泳社, 2021

参考書コメント

プログラミング学習のための自習用オンライン講座を提供する。

備考

- ・「データサイエンス・AI基礎」及び「プログラミング」を履修済みであることが望ましい。
- ・ノートPC (Windows, Macともに可) を所有していれば, 持込みでの受講を推奨する。
- ・本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する。G-Portでの申し込みが必要である。

講義コード	W230309001
授業科目	基礎統計学
副題	初めて学ぶ統計学
担当者名	竹内 俊子
開講期間	春学期
時間割	春学期 木曜日 2時限 221
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-130-G

授業の到達目標

各自が関心のあることに問題意識を持ち、分析したい事柄に適するデータを集め、講義で習得した方法でExcelを使って分析し、結論を導くことができるようになることが目標です。
問題発見・分析・解決に必要な思考力・判断力・表現力を身につけ、現代社会において必要とされる情報コミュニケーションの技能の修得を目指します。

授業の内容及び授業の方法

さまざまな現象を科学的に分析するためには、適切なデータを集め、集められたデータを整理し、その意味するところを正しく理解し、そして結論を導くことが必要です。そのために統計学があります。本講義は、統計学を学んだことがない方のための統計学入門です。授業は講義(約2/3)とExcelによる実習(約1/3)によってすすめます。
授業の資料はWebClassに用意し、連絡はG-Portまたはメールを通じておこないます。

授業計画

実施週	内容
第1週	講義概要 統計データをどう解釈したらよいだろうか その1 サイズと単位
第2週	統計データをどう解釈したらよいだろうか その2 構成比と特化係数
第3週	統計データをどう解釈したらよいだろうか その3 指数・寄与率・標準化
第4週	統計データをどう解釈したらよいだろうか その4 データの類型
第5週	統計データをどう整理したらよいだろうか その1 分布表・分布図
第6週	統計データをどう整理したらよいだろうか その2 平均・分散
第7週	統計データをどう整理したらよいだろうか その3 ローレンツ曲線・ジニ係数
第8週	統計データをどう集めたらよいだろうか インターネットで情報収集

第9週	現象をどう分析したらよいだろうか その1 分割表
第10週	現象をどう分析したらよいだろうか その2 相関表・相関係数
第11週	現象をどう分析したらよいだろうか その3 回帰分析1 回帰式の当てはめと妥当性
第12週	現象をどう分析したらよいだろうか その4 回帰分析2 回帰モデルの作り方とその評価
第13週	レポート指導
第14週	現象をどう分析したらよいだろうか その5 回帰分析3 定性的な独立変数
第15週	まとめと確認

授業計画コメント

本科目は『事前調整科目』のため、第1週から通常の授業を始めます。
この授業は、『Excelの基本的な操作ができること』を前提として授業をすすめます。

準備学習(予習・復習)

資料の内容を理解し、練習問題および課題をすべておこない、さらに、返却された課題の結果を確認し、次の授業に臨んで下さい(3時間以上)。また、次回の授業の資料(WebClass)に目を通しておいて下さい(1時間以上)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート	30 %	レポートでは、問題発見・分析・解決に必要な思考力・判断力・表現力を評価します。
小テスト	40 %	小テストを数回おこない、授業内容の理解度を評価します。
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	30 %	ほぼ毎回の課題により、授業内容の理解度を評価します。

成績評価コメント

課題、小テスト、レポートを総合的に評価します。ただし、課題またはレポートが1つでも未提出の場合には単位を認定しません。
課題と小テストについては、紙提出の場合には点数とコメントを付与の上返却し、ファイル提出の場合にはメールでお知らせします。さらに、解説を授業内でおこないます。

教科書

教科書コメント

適宜、資料をWebClassにより配布します。

参考書

統計学:基礎コース,田中勝人,新世社,2010,第2,978-4-88384-154-7

統計学入門,森棟公夫,新世社,2000,第2,978-4-88384-017-5

講義コード	W230503001
授業科目	社会調査法
副題	
担当者名	本柳 亨
開講期間	秋学期
時間割	秋学期 月曜日 3時限 未定
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	SOC-024-G

授業の到達目標

本講義の到達目標は、目にうつる身近なことから問いを立て、考え、解くための「社会学的想像力」を養うことである。

授業の内容及び授業の方法

社会学の考察は、理論的な思考作業と実証的な思考作業の二つの思考作業を軸としている。本講義では、実証的な思考作業を中心とした社会調査の意義と目的、方法と手順の基礎的事項を解説する。解説の際は、恋愛、結婚、家族、SNSなど、身近な問題を題材として取り上げる。本講義では、社会調査の基礎的事項を理解してもらうことに加えて、「社会について考えること」の楽しさを体感してもらう。なお、情報技術科目群の本講義は事前調整科目（要事前申込）であり、クラス定員を設ける。

授業計画

実施週	内容
第1週	社会調査の基礎
第2週	社会調査のデザイン(一)
第3週	社会調査のデザイン(二)
第4週	理論的な思考作業
第5週	先行研究の調べ方
第6週	調査対象の選出方法
第7週	質問紙調査法の種類と方法
第8週	調査票の作成
第9週	エディティングとコーディング

第10週	データの基礎的集計
第11週	データの分析(一)
第12週	データの分析(二)
第13週	社会調査の企画と設計
第14週	社会調査の今日的課題
第15週	まとめ

授業計画コメント

授業計画は予定であり、変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業の前後は合計60時間以上の準備学習(予習・復習)を行うこと。この授業では、参考資料として、学術書のみならず、映画や小説も紹介する。関心をもった作品に対して積極的にアプローチし、それを自分の言葉で表現し、家族や友人と対話をする。こうした時間も「準備学習」に含まれる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	リアクションペーパーにより授業内容の理解度を評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業のリアクション・ペーパー(30%)と学期末レポート(70%)を合わせて総合的に評価する。

教科書

教科書コメント

参考書

参考書コメント

教科書は使用しない。授業中にプリントを配布し、必要に応じて参考書を紹介する。

備考

本講義は、統計学の知識が全くなくても受講できる。

参考書コメント

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施します。G-Port にて申し込みが必要となります。

講義にあわせてExcelによる実習をおこないます。そのため、『Excelの基本的な操作ができること』を前提として授業をすすめます。

教室設置のパソコンを使用しますので、パスワード等の準備をしてきて下さい。

講義コード	W230501801
授業科目	プログラミング
副題	
担当者名	清水 将吾
開講期間	春学期
時間割	春学期 水曜日 3時限 227
単位	2
配当年次	1～
コース・ナンバー	INF-122-G

授業の到達目標

- ・プログラムが動作する仕組みを理解する.
- ・簡単な処理であれば, 自身でロジックを組み立てて正常に動作するプログラムを作成できる.

授業の内容及び授業の方法

- ・PCを使用して, 演習を中心に進める.
- ・ビジュアルプログラミング言語としてScratch, テキストプログラミング言語としてPythonを使用する.
- ・連絡手段にはWebClassを使用する.

授業計画

実施週	内容
第1週	プログラミング概説
第2週	Scratch (1): 基本構造, 変数
第3週	Scratch (2): リスト, ブロック
第4週	Scratch (3): 座標を使ったアニメーションの実現
第5週	Scratch (4): 並列処理とメッセージ通信
第6週	Scratch (5): 自由課題
第7週	Scratch (6): 自由課題
第8週	Scratch (7): 自由課題
第9週	Scratch (8): 成果発表

第10週	Python (1): Google Colaboratoryの利用法
第11週	Python (2): 基本構造, 変数
第12週	Python (3): リスト, 関数
第13週	Python (4): ライブラリの活用 NumPy, Pandas
第14週	Python (5): ライブラリの活用 Matplotlib
第15週	まとめ

授業計画コメント

Scratchの自由課題(第6週～第9週)は原則として2名で共同作業する。

準備学習(予習・復習)

- ・授業中の解説はポイントに留めるため、各週で扱う項目の基本的な概念は参考書等を用いてあらかじめ理解しておくこと。(2時間)
- ・プログラムを授業時間内に完成できなかった場合は、次回授業までに完成させておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験		
レポート		
小テスト		
平常点(クラス追加、グループ作業の成果等)	70 %	各回の演習課題
その他(備考欄を参照)	30 %	Scratchの自由課題

成績評価コメント

教科書

教科書コメント

スライドを配布する。

参考書

Scratchで楽しく学ぶアート&サイエンス 改訂第2版, 石原 淳也(著)、阿部 和広 監, 日経BP, 2021
Python1年生 第2版 体験してわかる! 会話でまなべる! プログラミングのしくみ, 森 巧尚, 翔泳社, 2022
スッキリわかるPython入門, 国本 大悟 著/須藤 秋良 著/株式会社フレアリンク 監修, インプレス, 2019

参考書コメント

プログラミング学習のための自習用オンライン講座を提供する。

備考

本科目は事前調整科目のため履修時に抽選を実施する。G-Portでの申し込みが必要である。

履 修 規 定

日本文化学科

日本文化学科履修規定（2023（令和5）年度以降入学者）

日本文化学科の学生は、後に示す日本文化学科履修方法一覧（A－1表）に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上を修得しなければならない。日本文化専門科目群および指定された他学科専門科目については、日本文化学科履修方法付表（A－2表）に従って履修しなければならない。

原則として科目の重複履修は認めない。重複履修とは、単位修得済みの科目を再度履修登録することをいう。

1. コース登録

第5セメスター以降、日本文化学科の学生は、民俗・歴史コース、日本語・日本文学コース、芸術文化・アートマネジメントコース、現代文化コースの4つのコースに分かれる。学生はそれらのうち1つを選択しなければならない。

学生は第4セメスター中にコースを選択し、「コース登録願」を提出しなければならない。なお、登録したコースの変更は原則として認めない。

教職課程履修者は日本語・日本文学コースに登録しなければならない。

〔民俗・歴史コース〕

民俗学や歴史学を中心的な学問分野とし、異なる時代や外国文化を視野に入れながら、比較文化的、多面的に日本文化を研究するコース。

〔日本語・日本文学コース〕

日本語学や日本文学を中心的な学問分野とし、日本語の特性やその変遷、古典から近現代にいたる日本文学の諸相を研究するコース。

〔芸術文化・アートマネジメントコース〕

日本や世界各地の美術をはじめとした芸術文化を広く対象とし、それらの特性や意義などを研究するとともに、アートマネジメントの手法等について学ぶコース。

〔現代文化コース〕

さまざまな学問分野を横断的・学術的に学び、食、環境、情報、メディア、スポーツ、心理、市民社会などの主題をめぐって現代文化を研究するコース。

2. 必修・必修選択科目——専門科目（基礎科目群）

専門科目一覧表の中から、A－1表に示す科目群ごとの規定に従って、11科目以上履修し計22単位以上修得しなければならない。

〈日本文化基礎演習科目群〉

日本文化基礎演習（以下、基礎演習という。）を3科目以上履修し計6単位以上修得しなければならない。

- ① 1、2年次において、異なる担当者の科目をⅠ～Ⅳの中から3科目以上履修すること。ただし、同一セメスターで複数の基礎演習を履修することはできない。
- ② 第3セメスターまでに基礎演習科目群より3科目6単位を修得した学生は、第4セメスターの基礎演習を自由選択科目の専門他として履修することができる。その場合、すでに単位を修得した基礎演習と同じ担当者の基礎演習であっても履修することができる。

- ③専門演習担当教員の指示により、3年次以降に4科目目の基礎演習（専門演習の教員が担当する科目）を履修することができる。また、3年次以降に再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈日本文化基礎科目群〉

8科目以上履修し計16単位以上修得しなければならない。

3. 必修・必修選択科目——専門科目（発展科目群）

〈日本文化専門科目群／指定された他学科専門科目〉

それぞれのコースごとに、A-2表に従って13科目以上履修し計26単位以上修得しなければならない。

〈比較文化研究科目群〉

3年次以上において、1科目以上履修し計2単位以上修得しなければならない。日本語・日本文学コースの学生は比較文化論Ⅱ（文学）を必修とする。

〈日本文化専門演習科目群〉

日本文化演習（以下、専門演習という。）を4科目履修し計8単位修得し、かつ卒業研究または卒業論文を履修し8単位修得しなければならない。

- ①3、4年次において、原則として同じ担当者の専門演習をⅠ～Ⅳについて1科目ずつ履修し、かつ4年次に卒業研究または卒業論文のうち1科目を選択すること。卒業研究・卒業論文の選択については専門演習担当教員の指示に従うこと。卒業研究または卒業論文の履修登録は提出する学期の履修登録期間に行うこと。
- ②民俗・歴史コースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのC、D、E、H、I、J、Lのいずれかを選択すること。
- ③日本語・日本文学コースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのD、E、F、H、O、Rのいずれかを選択すること。
- ④芸術文化・アートマネジメントコースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのA、B、C、I、J、Pのいずれかを選択すること。
- ⑤現代文化コースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのF、G、K、L、M、N、O、R、S、Tのいずれかを選択すること。

4. 必修・必修選択科目——共通科目

共通科目一覧表の中から、A-1表に示す科目群ごとの規定に従って、18科目以上履修し計36単位以上修得しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

5. 自由選択科目

A-1表に示された科目群（あるいは科目）の中から履修し計32単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室に確認すること。

6. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することがで

きない科目をいう。

7. 教職課程・司書課程・学芸員課程の履修について

各課程のガイダンス等で示される履修指導に従うこと。

A - 1 表：日本文化学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		必 修		必修選択		合 計		総単		
				科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	位数		
必修・必修 選択 科目	専門科目	基礎科目群	日本文化基礎演習科目群				3	6	11	22	66	
			日本文化基礎科目群				8	16				
		発展科目群	日本文化専門科目群*1	民俗・歴史系科目群 文学・芸術・思想系科目群 現代社会系科目群			13	26	19	44		
			指定された他学科専門科目*1									
			比較文化研究科目群*2				1	2				
			日本文化専門演習科目群	日本文化演習	4	8						
	卒業研究・卒業論文	1		8								
	共通科目	外国語科目1群		7	14			18	36	36		
		情報技術科目群				2	4					
		日本語表現法科目群				1	2					
		特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群				3	6					
		共通基礎科目群				2	4					
		人間・環境系科目群				2	4					
		多文化学際科目群				1	2					
		自由 選択 科目	共通科目	外国語科目2群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な36単位を超える共通科目								
	専門 他			専門科目として必要な66単位を超える日本文化学科の専門科目 国際コミュニケーション学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目 教職課程に関する科目のうち、指定された科目（P234参照） 日本語教員養成講座専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目								
その他				f-Campus提供科目 学習院大学特別聴講科目 国外大学科目 外国語認定科目								
				総計134単位以上								

*1 A - 2 表に従って履修すること。

*2 日本語・日本文学コースの学生は比較文化論Ⅱ（文学）を必修とする。

A - 2 表：日本文化学科履修方法付表

選択コース	日本文化学科専門科目・指定された他学科専門科目（必修選択）	合計	
		科目数	単位数
民俗・歴史コース	ア～ウから13科目以上履修し計26単位以上を修得すること。 ア 民俗・歴史系科目群の全科目 イ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ ウ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 文化人類学Ⅰ・Ⅱ 比較道具論 比較居住文化論	13	26
日本語・日本文学コース	エから3科目以上履修し計6単位以上修得すること。オから10科目以上履修し計20単位以上修得すること。 エ 文学・芸術・思想系科目群および指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本語学Ⅲ、言語学Ⅰ・Ⅱ、社会言語学Ⅰ・Ⅱ オ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 日本文学論Ⅰ～Ⅴ、日本文学研究Ⅰ～Ⅴ、中国文学論Ⅰ・Ⅱ		
芸術文化・アートマネジメントコース	カ～ケから13科目以上履修し計26単位以上修得すること。 カ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ キ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 歴史資料論Ⅰ～Ⅳ ク 現代社会系科目群のうち次の科目 現代文化論Ⅰ～Ⅶ メディア論 ケ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マーケティング 経営学Ⅰ・Ⅱ 比較音楽論Ⅰ・Ⅱ 文化遺産学 日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱ		
現代文化コース	コ～スから13科目以上履修し計26単位以上修得すること。 コ 現代社会系科目群の全科目 サ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ シ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 民俗文化論Ⅲ・Ⅳ 日本生活文化論Ⅳ ス 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マスコミュニケーション論Ⅰ～Ⅲ		

日本文化学科履修規定 (2019 (平成31) 年度～ 2022 (令和4) 年度入学者)

日本文化学科の学生は、後に示す日本文化学科履修方法一覧 (A-3 表) に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上を修得しなければならない。日本文化専門科目群および指定された他学科専門科目については、日本文化学科履修方法付表 (A-4 表) に従って履修しなければならない。

原則として科目の重複履修は認めない。重複履修とは、単位修得済みの科目を再度履修登録することをいう。

1. コース登録

第5セメスター以降、日本文化学科の学生は、民俗・歴史コース、日本語・日本文学コース、芸術文化・アートマネジメントコース、現代文化コースの4つのコースに分かれる。学生はそれらのうち1つを選択しなければならない。

学生は第4セメスター中にコースを選択し、「コース登録願」を提出しなければならない。なお、登録したコースの変更は原則として認めない。

教職課程履修者は日本語・日本文学コースに登録しなければならない。

〔民俗・歴史コース〕

民俗学や歴史学を中心的な学問分野とし、異なる時代や外国文化を視野に入れながら、比較文化的、多面的に日本文化を研究するコース。

〔日本語・日本文学コース〕

日本語学や日本文学を中心的な学問分野とし、日本語の特性やその変遷、古典から近現代にいたる日本文学の諸相を研究するコース。

〔芸術文化・アートマネジメントコース〕

日本や世界各地の美術をはじめとした芸術文化を広く対象とし、それらの特性や意義などを研究するとともに、アートマネジメントの手法等について学ぶコース。

〔現代文化コース〕

さまざまな学問分野を横断的・学術的に学び、食、環境、情報、メディア、スポーツ、心理、市民社会などの主題をめぐって現代文化を研究するコース。

2. 必修・必修選択科目——専門科目 (基礎科目群)

専門科目一覧表の中から、A-3 表に示す科目群ごとの規定に従って、11科目以上履修し計22単位以上修得しなければならない。

〈日本文化基礎演習科目群〉

日本文化基礎演習 (以下、基礎演習という。) を3科目以上履修し計6単位以上修得しなければならない。

- ① 1、2年次において、異なる担当者の科目をⅠ～Ⅳの中から3科目以上履修すること。ただし、同一セメスターで複数の基礎演習を履修することはできない。
- ② 第3セメスターまでに基礎演習科目群より3科目6単位を修得した学生は、第4セメスターの基礎演習を自由選択科目の専門他として履修することができる。その場合、すでに単位を修得した基礎演習と同じ担当者の基礎演習であっても履修することができる。

- ③専門演習担当教員の指示により、3年次以降に4科目目の基礎演習（専門演習の教員が担当する科目）を履修することができる。また、3年次以降に再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈日本文化基礎科目群〉

8科目以上履修し計16単位以上修得しなければならない。

3. 必修・必修選択科目——専門科目（発展科目群）

〈日本文化専門科目群／指定された他学科専門科目〉

それぞれのコースごとに、A-4表に従って13科目以上履修し計26単位以上修得しなければならない。

〈比較文化研究科目群〉

3年次以上において、1科目以上履修し計2単位以上修得しなければならない。日本語・日本文学コースの学生は比較文化論Ⅱ（文学）を必修とする。

〈日本文化専門演習科目群〉

日本文化演習（以下、専門演習という。）を4科目履修し計8単位修得し、かつ卒業研究または卒業論文を履修し8単位修得しなければならない。

- ①3、4年次において、原則として同じ担当者の専門演習をⅠ～Ⅳについて1科目ずつ履修し、かつ4年次に卒業研究または卒業論文のうち1科目を選択すること。卒業研究・卒業論文の選択については専門演習担当教員の指示に従うこと。卒業研究または卒業論文の履修登録は提出する学期の履修登録期間に行うこと。
- ②民俗・歴史コースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのC、D、E、H、I、J、Lのいずれかを選択すること。
- ③日本語・日本文学コースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのD、E、F、H、O、Rのいずれかを選択すること。
- ④芸術文化・アートマネジメントコースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのA、B、C、I、J、Pのいずれかを選択すること。
- ⑤現代文化コースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのF、G、K、L、M、N、O、R、S、Tのいずれかを選択すること。

4. 必修・必修選択科目——共通科目

共通科目一覧表の中から、A-3表に示す科目群ごとの規定に従って、17科目以上履修し計34単位以上修得しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

5. 自由選択科目

A-3表に示された科目群（あるいは科目）の中から履修し計34単位以上修得しなければならない。英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室に確認すること。

6. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することがで

きない科目をいう。

7. 教職課程・司書課程・学芸員課程の履修について

各課程のガイダンス等で示される履修指導に従うこと。

A - 3 表：日本文化学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		必 修		必修選択		合 計		総単	
				科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	位数	
必修・必修 選択	専 門 科 目 群	基礎科目群	日本文化基礎演習科目群				3	6	11	22	66
			日本文化基礎科目群				8	16			
		発展科目群	日本文化専門科目群*1	民俗・歴史系科目群 文学・芸術・思想系科目群 現代社会系科目群			13	26	19	44	
			指定された他学科専門科目*1								
			比較文化研究科目群*2				1	2			
			日本文化専門演習科目群	日本文化演習	4	8					
		卒業研究・卒業論文	1	8							
	択 科 目	共 通 科 目	外国語科目1群		7	14			17	34	
情報技術科目群					2	4					
日本語表現法科目群					1	2					
特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群					3	6					
共通基礎科目群					2	4					
人間・環境系科目群					2	4					
自由 選択 科目			共 通 科 目	外国語科目2群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 多文化学際科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な34単位を超える共通科目							
	専 門 他	専門科目として必要な66単位を超える日本文化学科の専門科目 国際コミュニケーション学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目 教職課程に関する科目のうち、指定された科目（P234参照）									
		そ の 他	f-Campus提供科目 学習院大学特別聴講科目 国外大学科目 外国語認定科目								
修 得 単 位 数					総計134単位以上						

*1 A - 4 表に従って履修すること。

*2 日本語・日本文学コースの学生は比較文化論Ⅱ（文学）を必修とする。

A - 4 表：日本文化学科履修方法付表

選択コース	日本文化専門科目・指定された他学科専門科目（必修選択）	合計	
		科目数	単位数
民俗・歴史コース	ア～ウから13科目以上履修し計26単位以上を修得すること。 ア 民俗・歴史系科目群の全科目 イ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ ウ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 文化人類学Ⅰ・Ⅱ 比較道具論 比較居住文化論	13	26
日本語・日本文学コース	エから3科目以上履修し計6単位以上修得すること。オから10科目以上履修し計20単位以上修得すること。 エ 文学・芸術・思想系科目群および指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本語学Ⅲ、言語学Ⅰ・Ⅱ、社会言語学Ⅰ・Ⅱ オ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 日本文学論Ⅰ～Ⅴ、日本文学研究Ⅰ～Ⅴ、中国文学論Ⅰ・Ⅱ		
芸術文化・アートマネジメントコース	カ～ケから13科目以上履修し計26単位以上修得すること。 カ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ キ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 歴史資料論Ⅰ～Ⅳ ク 現代社会系科目群のうち次の科目 現代文化論Ⅰ～Ⅶ メディア論 ケ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マーケティング 経営学Ⅰ・Ⅱ 比較音楽論Ⅰ・Ⅱ 文化遺産学 日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱ		
現代文化コース	コ～スから13科目以上履修し計26単位以上修得すること。 コ 現代社会系科目群の全科目 サ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ シ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 民俗文化論Ⅲ・Ⅳ 日本生活文化論Ⅳ ス 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マスコミュニケーション論Ⅰ～Ⅲ		

日本文化学科履修規定（2018（平成30）年度入学者）

日本文化学科の学生は、後に示す日本文化学科履修方法一覧（A－5表）に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上を修得しなければならない。日本文化専門科目群および指定された他学科専門科目については、日本文化学科履修方法付表（A－6表）に従って履修しなければならない。

原則として科目の重複履修は認めない。重複履修とは、単位修得済みの科目を再度履修登録することをいう。

1. コース登録

第5セメスター以降、日本文化学科の学生は、民俗・歴史コース、日本語・日本文学コース、芸術文化・アートマネジメントコース、現代文化コースの4つのコースに分かれる。学生はそれらのうち1つを選択しなければならない。

学生は第4セメスター中にコースを選択し、「コース登録願」を提出しなければならない。なお、登録したコースの変更は原則として認めない。

教職課程履修者は日本語・日本文学コースに登録しなければならない。

〔民俗・歴史コース〕

民俗学や歴史学を中心的な学問分野とし、異なる時代や外国文化を視野に入れながら、比較文化的、多面的に日本文化を研究するコース。

〔日本語・日本文学コース〕

日本語学や日本文学を中心的な学問分野とし、日本語の特性やその変遷、古典から近現代にいたる日本文学の諸相を研究するコース。

〔芸術文化・アートマネジメントコース〕

日本や世界各地の美術をはじめとした芸術文化を広く対象とし、それらの特性や意義などを研究するとともに、アートマネジメントの手法等について学ぶコース。

〔現代文化コース〕

さまざまな学問分野を横断的・学術的に学び、食、環境、情報、メディア、スポーツ、心理、市民社会などの主題をめぐって現代文化を研究するコース。

2. 必修・必修選択科目——専門科目（基礎科目群）

専門科目一覧表の中から、A－5表に示す科目群ごとの規定に従って、11科目以上履修し計22単位以上修得しなければならない。

〈日本文化基礎演習科目群〉

日本文化基礎演習（以下、基礎演習という。）を3科目以上履修し計6単位以上修得しなければならない。

- ① 1、2年次において、異なる担当者の科目をⅠ～Ⅳの中から3科目以上履修すること。ただし、同一セメスターで複数の基礎演習を履修することはできない。
- ② 第3セメスターまでに基礎演習科目群より3科目6単位を修得した学生は、第4セメスターの基礎演習を自由選択科目の専門他として履修することができる。その場合、すでに単位を修得した基礎演習と同じ担当者の基礎演習であっても履修することができる。

- ③専門演習担当教員の指示により、3年次以降に4科目目の基礎演習（専門演習の教員が担当する科目）を履修することができる。また、3年次以降に再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈日本文化基礎科目群〉

8科目以上履修し計16単位以上修得しなければならない。

3. 必修・必修選択科目——専門科目（発展科目群）

〈日本文化専門科目群／指定された他学科専門科目〉

それぞれのコースごとに、A-6表に従って13科目以上履修し計26単位以上修得しなければならない。

〈比較文化研究科目群〉

3年次以上において、1科目以上履修し計2単位以上修得しなければならない。日本語・日本文学コースの学生は比較文化論Ⅱ（文学）を必修とする。

〈日本文化専門演習科目群〉

日本文化演習（以下、専門演習という。）を4科目履修し計8単位修得し、かつ卒業研究または卒業論文を履修し8単位修得しなければならない。

- ①3、4年次において、原則として同じ担当者の専門演習をⅠ～Ⅳについて1科目ずつ履修し、かつ4年次に卒業研究または卒業論文のうち1科目を選択すること。卒業研究・卒業論文の選択については専門演習担当教員の指示に従うこと。卒業研究または卒業論文の履修登録は提出する学期の履修登録期間に行うこと。
- ②民俗・歴史コースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのC、D、E、H、I、J、Lのいずれかを選択すること。
- ③日本語・日本文学コースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのD、E、F、H、O、Rのいずれかを選択すること。
- ④芸術文化・アートマネジメントコースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのA、B、C、I、J、Pのいずれかを選択すること。
- ⑤現代文化コースの学生は、日本文化演習Ⅰ～ⅣのF、G、K、L、M、N、O、R、S、Tのいずれかを選択すること。

4. 必修・必修選択科目——共通科目

共通科目一覧表の中から、A-5表に示す科目群ごとの規定に従って、17科目以上履修し計34単位以上修得しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

5. 自由選択科目

A-5表に示された科目群（あるいは科目）の中から履修し計34単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室に確認すること。

6. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することがで

きない科目をいう。

7. 教職課程・司書課程・学芸員課程の履修について

各課程のガイダンス等で示される履修指導に従うこと。

A - 5 表：日本文化学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		必 修		必修選択		合 計		総単		
				科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	位数		
必修・必修選	専門科目群	基礎科目群	日本文化基礎演習科目群				3	6	11	22	66	
			日本文化基礎科目群				8	16				
		発展科目群	日本文化専門科目群*1	民俗・歴史系科目群 文学・芸術・思想系科目群 現代社会系科目群			13	26	19	44		
			指定された他学科専門科目*1									
			比較文化研究科目群*2				1	2				
			日本文化専門演習科目群	日本文化演習	4	8						
	卒業研究・卒業論文	1		8								
	択科目群	共通科目	外国語科目1群		7	14			17	34	34	
			情報技術科目群		2	4						
			日本語表現法科目群		1	2						
特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群					3	6						
共通基礎科目群					2	4						
人間・環境系科目群					2	4						
自由選択科目			共通科目	外国語科目2群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 多文化学際科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な34単位を超える共通科目								
	専門他	専門科目として必要な66単位を超える日本文化学科の専門科目 国際コミュニケーション学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目										
		その他		f-Campus提供科目 学習院大学特別聴講科目 国外大学科目 外国語認定科目								

修 得 単 位 数				総計134単位以上						
-----------	--	--	--	-----------	--	--	--	--	--	--

*1 A - 6 表に従って履修すること。

*2 日本語・日本文学コースの学生は比較文化論Ⅱ（文学）を必修とする。

A - 6 表：日本文化学科履修方法付表

選択コース	日本文化専門科目・指定された他学科専門科目（必修選択）	合計	
		科目数	単位数
民俗・歴史コース	ア～ウから13科目以上履修し計26単位以上を修得すること。 ア 民俗・歴史系科目群の全科目 イ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ ウ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 文化人類学Ⅰ・Ⅱ 比較道具論 比較居住文化論	13	26
日本語・日本文学コース	エから3科目以上履修し計6単位以上修得すること。オから10科目以上履修し計20単位以上修得すること。 エ 文学・芸術・思想系科目群および指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本語学Ⅲ、言語学Ⅰ・Ⅱ、社会言語学Ⅰ・Ⅱ オ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 日本文学論Ⅰ～Ⅴ、日本文学研究Ⅰ～Ⅴ、中国文学論Ⅰ・Ⅱ		
芸術文化・アートマネジメントコース	カ～ケから13科目以上履修し計26単位以上修得すること。 カ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ キ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 歴史資料論Ⅰ～Ⅳ ク 現代社会系科目群のうち次の科目 現代文化論Ⅰ～Ⅶ メディア論 ケ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マーケティング 経営学Ⅰ・Ⅱ 比較音楽論Ⅰ・Ⅱ 文化遺産学 日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱ		
現代文化コース	コ～スから13科目以上履修し計26単位以上修得すること。 コ 現代社会系科目群の全科目 サ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ シ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 民俗文化論Ⅲ・Ⅳ 日本生活文化論Ⅳ ス 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マスコミュニケーション論Ⅰ～Ⅲ		

日本文化学科履修規定(2014(平成26)年度～2017(平成29)年度入学者・2020(令和2)年度以降3年次編入学者)

1. 専門科目

日本文化学科の学生は、専門科目一覧表の中から、A-7～9表に示す科目群ごとの規定に従って、54単位以上を修得しなければならない。

原則として重複履修は認めない。

〈基礎演習科目群〉

- ①基礎演習科目群は、1、2年次において、異なる担当者の科目をⅠ～Ⅳの中から3科目以上履修すること。ただし、同一セメスターで複数の基礎演習を履修することはできない。
- ②第1～第3セメスターまでに基礎演習科目群より3科目6単位を修得した学生については、第4セメスターの基礎演習は、必修ではないが履修することができる。その場合、すでに単位を修得した基礎演習と同じ担当者の基礎演習であっても履修することができる。修得した場合は自由選択科目、専門他の単位として認める。
- ③専門演習担当教員の指示により、3年次以降で4科目目の基礎演習（専門演習の教員が担当する科目）を履修することができる。また、3年次以降で再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈専門演習科目群〉

3、4年次において、原則として同じ担当者の演習をⅠ～Ⅳについて各1科目ずつ履修し、かつ4年次に卒業研究または卒業論文のうち1科目選択すること。卒業研究・卒業論文の選択については専門演習担当教員の指示に従うこと。

2. 共通科目

共通科目の科目一覧表の中から、A-7・8表に示す科目群ごとの規定に従って、34単位以上を修得しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

3. 自由選択科目

A-7・8表に示された科目群（あるいは科目）の中から23科目46単位以上を、選択のうえ修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室担当者に確認すること。

4. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

2014（平成26）年度～2017（平成29）年度入学者用

日本文化学科の学生は、次の履修方法一覧（A－7表）に従い、合計134単位以上を修得しなければならない。

A－7表：日本文化学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		必 修		必修選択		合 計	
				科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
必修・必修 選択科目	専 門 科 目	基礎演習科目群				3	6	24	54
		日本文化基礎科目群				6	12		
		日本文化専門科目群	民俗・歴史系科目群 芸術・思想系科目群 現代社会系科目群			9	18		
		指定された他学科専門科目							
		比較文化研究科目群				1	2		
		専門演習科目群	日本文化演習	4	8				
			卒業研究・卒業論文	1	8				
	共 通 科 目	外国語科目1群		7	14			17	34
		情報技術科目群		2	4				
		日本語表現法科目群		1	2				
		特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群			3	6			
		共通基礎科目群				2	4		
		人間・環境系科目群				2	4		
自由 選択科目	共 通 科 目	外国語科目2群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 多文化学際科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な34単位を超える共通科目							
		専門科目として必要な54単位を超える日本文化学科の専門科目 国際コミュニケーション学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目							
	そ の 他	f-Campus提供科目 学習院大学特別聴講科目 国外大学科目（平成29年度設置） 外国語認定科目							
修 得 単 位 数				総計134単位以上					

2020（令和2）年度以降3年次編入学者用

日本文化学科3年次に編入学した学生は、次の履修方法一覧（A－8表）に従い、合計134単位以上を修得しなければならない。日本文化専門科目群および指定された他学科専門科目については、日本文化学科履修方法付表（A－9表）に従って履修しなければならない。ただし他学校で修得した単位のうち、66単位を認定する。なお、教職課程科目に関しては、66単位のうちから認定することがある。

A－8表：日本文化学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		認 定		必 修		必修選択		合 計	
				科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
必修・必修 選択科目	専 門 科 目	日本文化基礎演習科目群		3	6					11	22
		日本文化基礎科目群		2	4			6	12		
		日本文化専門科目群*1	民俗・歴史系科目群 文学・芸術・思想系科目群 現代社会系科目群	3	6			10	20	19	44
		指定された他学科専門科目*1									
		比較文化研究科目群*2						1	2		
		日本文化専門演習科目群	日本文化演習			4	8				
			卒業研究・卒業論文			1	8				
	共 通 科 目	外国語科目1群		5	10	2	4			17	34
		情報技術科目群		2	4						
		日本語表現法科目群		1	2						
		特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群		2	4			5	10		
		共通基礎科目群									
		人間・環境系科目群									
自由 選択科目	共 通 科 目	外国語科目2群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 多文化学際科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な34単位を超える共通科目		15	30					17	34
		専門科目として必要な66単位を超える日本文化学科の専門科目 国際コミュニケーション学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目									
		そ の 他	f-Campus提供科目 学習院大学特別聴講科目 国外大学科目 外国語認定科目								
	修 得 単 位 数					総計134単位以上					

*1 A－9表に従って履修すること。

*2 日本語・日本文学コースの学生は比較文化論Ⅱ（文85）を必修とする。

A-9表：日本文化学科履修方法付表

選択コース	日本文化専門科目・指定された他学科専門科目（必修選択）	合 計	
		科目数	単位数
民俗・歴史コース	ア～ウから10科目以上履修し計20単位以上を修得すること。 ア 民俗・歴史系科目群の全科目 イ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ ウ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 文化人類学Ⅰ・Ⅱ 比較道具論 比較居住文化論	10	20
日本語・日本文学コース	エから2科目以上履修し計4単位以上修得すること。オから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。 エ 文学・芸術・思想系科目群および指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本語学Ⅲ、言語学Ⅰ・Ⅱ、社会言語学Ⅰ・Ⅱ オ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 日本文学論Ⅰ～Ⅴ、日本文学研究Ⅰ～Ⅴ、中国文学論Ⅰ・Ⅱ		
芸術文化・アートマネジメントコース	カ～ケから10科目以上履修し計20単位以上修得すること。 カ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ 日本思想研究Ⅰ～Ⅵ キ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 歴史資料論Ⅰ～Ⅳ ク 現代社会系科目群のうち次の科目 現代文化論Ⅰ～Ⅶ メディア論 ケ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マーケティングⅠ・Ⅱ 経営学Ⅰ・Ⅱ 比較音楽論Ⅰ・Ⅱ 文化遺産学 日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱ		
現代文化コース	コ～スから10科目以上履修し計20単位以上修得すること。 コ 現代社会系科目群の全科目 サ 文学・芸術・思想系科目群のうち次の科目 形象文化論Ⅰ～Ⅵ 身体文化論Ⅰ・Ⅱ シ 民俗・歴史系科目群のうち次の科目 民俗文化論Ⅲ・Ⅳ 日本生活文化論Ⅳ ス 指定された他学科専門科目のうち次の科目 マスコミュニケーション論Ⅰ～Ⅲ		

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科履修規定（2023（令和5）年度以降入学者）

国際コミュニケーション学科の学生は、後に示す国際コミュニケーション学科履修方法一覧（B－1表）に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上修得しなければならない。国際関係専門科目群、地域文化系専門科目群、英語圏文化専門科目群および指定された他学科専門科目については、国際コミュニケーション学科履修方法付表（B－2表）に従って履修しなければならない。

原則として科目の重複履修は認めない（ジェネラルコースの外国語演習Ⅰ・Ⅱの履修については例外とする）。重複履修とは、単位修得済みの科目を再度履修登録することをいう。

1. コース登録

第5セメスター以降、国際コミュニケーション学科の学生は、国際関係コース、地域文化コース、英語圏文化コース、ジェネラルコース（専門演習科目群を選択しないコース）の4つのコースに分かれる。学生はそれらのうち1つを選択しなければならない。

学生は第4セメスター中にコースを選択し、「コース登録願」を提出しなければならない。なお、登録したコースの変更は原則として認めない。

教職課程履修者は英語圏文化コースに登録しなければならない。

〔国際関係コース〕

政治、経済・経営、法律、マスメディアなどの社会科学分野を中心として、国際関係と国際協力について理論的、実践的に研究するコース。

〔地域文化コース〕

ヨーロッパの各地域、アジアの各地域の言語、文化、歴史を主要な対象として、人文学的アプローチを中心に研究するコース。

〔英語圏文化コース〕

英語を用いたコミュニケーションと文学を広く英語圏文化の文脈に位置づけながら、人文学的アプローチを中心に研究するコース。

〔ジェネラルコース〕

英語の運用能力を高めつつ国際コミュニケーションについて広く学び、国際文化交流のための語学力と教養を身につけるコース。このコースの学生は国際コミュニケーション演習と卒業研究・卒業論文を履修しない。

2. 必修・必修選択科目——専門科目（基礎科目群）

専門科目一覧表の中から、B－1表に示す科目群ごとの規定に従って、14科目以上履修し計28単位以上修得しなければならない。なお、基礎演習科目群のみならず、国際関係基礎科目群、地域文化系基礎科目群および英語圏文化基礎科目群に属する科目は、1、2年次において優先して履修すること。

〈国際コミュニケーション基礎演習科目群〉

国際コミュニケーション基礎演習（以下、基礎演習という。）を4科目履修し計8単位修得しなければならない。

- ①基礎演習は、1、2年次の各セメスターに原則としてⅠ～Ⅳの順でそれぞれ1科目ずつ履修すること。
- ②基礎演習の4科目はそれぞれ異なる担当者（※それぞれ異なるアルファベット）の科目を履修すること。
- ③再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈国際関係基礎科目群／地域文化系基礎科目群／英語圏文化基礎科目群〉

国際関係基礎科目群、地域文化系基礎科目群、英語圏文化基礎科目群から8科目以上履修し計16単位以上修得しなければならない。

〈英語演習基礎科目群〉

2年次に、英語演習Ⅰ・Ⅱを履修し計4単位修得しなければならない。教職課程履修者は英語演習Ⅰ（Conversation & Presentation）・英語演習Ⅱ（Reading & Writing）を必修とする。

3年次以降に再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

3. 必修・必修選択科目——専門科目（発展科目群）

専門科目一覧表の中から、B－1表およびB－2表に示す科目群ごとの規定に従って、19科目以上履修し計44単位以上修得しなければならない。ただし、ジェネラルコースの学生は22科目以上履修し計44単位以上修得しなければならない。

〈国際関係専門科目群／地域文化系専門科目群／英語圏文化専門科目群／指定された他学科専門科目〉

それぞれのコースごとに、B－2表に従って12科目以上履修し計24単位以上修得しなければならない。

ジェネラルコースの学生のみ、18科目以上履修し計36単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室に確認すること。

〈外国語演習専門科目群〉

3年次に、外国語演習Ⅰ・Ⅱを履修し計4単位修得しなければならない。ただし、英語圏文化コースの学生は外国語演習Ⅰ（英語圏文化）・外国語演習Ⅱ（英語圏文化）を必修とする。

ジェネラルコースの学生のみ、3年次に必修となっている外国語演習Ⅰ・Ⅱに加えて、4年次においてさらに外国語演習Ⅰ・Ⅱ（単位修得済みのクラスを除く）を2科目履修し、計8単位修得しなければならない。

4年次以降に再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈国際コミュニケーション専門演習科目群〉

国際関係コース、地域文化コース、英語圏文化コースの学生は、国際コミュニケーション演習（以下、専門演習という。）を4科目履修し計8単位修得し、かつ卒業研究または卒業論文を履修し8単位修得しなければならない。

専門演習を選択するためには、原則として、第3セメスターまでに48単位以上修得していなければならない。これを満たしていない場合は、希望する専門演習の担当教員に個別に相談すること。また、休学をした場合は、専門演習申請時に36単位以上修得していなければならない。修得していない場合は、ジェネラルコースを選択するか、卒業を1年遅らせることを前提に翌年度に専門演習を申請すること。

- ① 3、4年次において、原則として同じ担当者の専門演習Ⅰ～Ⅳを履修し、かつ4年次に卒業研究または卒業論文のうち1科目を選択すること。卒業研究または卒業論文の履修登録は提出する学期の履修登録期間に行うこと。
- ② 国際関係コースの学生は、国際コミュニケーション演習Ⅰ～ⅣのA、C、E、G、J、K、M、P、Q、R、S、T、V、W、Xのいずれかを選択すること。
- ③ 地域文化コースの学生は、国際コミュニケーション演習Ⅰ～ⅣのA、C、D、F、H、I、K、N、P、S、U、V、W、Xのいずれかを選択すること。
- ④ 英語圏文化コースの学生は、国際コミュニケーション演習Ⅰ～ⅣのB、E、J、L、O、R、V、Wのいずれかを選択すること。特に教職課程履修者はB、E、J、L、O、Rのいずれかを選択すること。

⑤ジェネラルコースの学生は、専門演習と卒業研究・卒業論文を履修することができない。

4. 必修・必修選択科目——共通科目

共通科目一覧表の中から、B－1表に示す科目群ごとの規定に従って、18科目以上履修し計36単位以上修得しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

5. 自由選択科目

B－1表に示された科目群（あるいは科目）の中から選択のうえ履修し計26単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室に確認すること。

6. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

7. 教職課程・司書課程・学芸員課程の履修について

各課程のガイダンス等で示される履修指導に従うこと。

B-1表：国際コミュニケーション学科履修方法一覧（括弧内はジェネラルコース）

区 分		科 目 群 名		必 修		必修選択		合 計		総単 位数	
				科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数		
必修・必修 選択	専 門 科 目 群	基礎	国際コミュニケーション基礎演習科目群	4	8			14	28	72	
		科目群	国際関係基礎科目群 地域文化系基礎科目群 英語圏文化基礎科目群			8	16				
			英語演習基礎科目群	2	4						
			国際関係専門科目群* 地域文化系専門科目群* 英語圏文化専門科目群*			12 (18)	24 (36)				
	発展 科目群	指定された他学科専門科目*						19 (22)	44		
		外国語演習専門科目群		2 (4)	4 (8)						
		国際コミュニケーション 専門演習科目群	国際コミュニケーション演習	4 (0)	8 (0)						
			卒業研究・卒業論文	1 (0)	8 (0)						
	共 通 科 目	外国語科目1群		7	14			18	36	36	
		情報技術科目群				2	4				
		日本語表現法科目群				1	2				
		特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群				3	6				
		共通基礎科目群				2	4				
		人間・環境系科目群				2	4				
		多文化学際科目群				1	2				
自由 選択 科目	共通 科目	外国語科目2群 日本語表現法科目群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な36単位を超える共通科目									
	専門 他	専門科目として必要な72単位を超える国際コミュニケーション学科の専門科目 日本文化学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目 教職課程に関する科目のうち、指定された科目（P234参照） 日本語教員養成講座専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目									
	その他	f-Campus提供科目 学習院大学特別聴講科目 国外大学科目 外国語認定科目									
修 得 単 位 数				総計134単位以上							

* B-2表に従って履修すること。

B-2表：国際コミュニケーション学科履修方法付表

選択コース	国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群・指定された他学科専門科目（必修選択）	合計	
		科目数	単位数
国際関係コース	アから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。イ・ウから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 ア 国際関係専門科目群の全科目 イ 地域文化系専門科目群の全科目 ウ 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ イギリス文化論Ⅰ・Ⅱ オセアニア文化論	12	24
地域文化コース	エ・オから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。カ・キから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 エ 地域文化系専門科目群の全科目 オ 英語圏文化専門科目群の全科目 カ 国際関係専門科目群の全科目 キ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本文化政策論Ⅰ・Ⅱ 比較文化論Ⅰ～Ⅶ・Ⅹ		
英語圏文化コース	クから①～③の要件をすべて満たして6科目以上履修し計12単位以上修得すること。ケから6科目以上履修し計12単位以上修得すること。 ク 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 ①英語学Ⅲ・Ⅳ、日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ②アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ、イギリス文化論Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ③アメリカ文学論、アメリカ文学研究、イギリス文学論、イギリス文学研究から2科目以上履修し計4単位以上修得すること ケ 英語圏文化専門科目群のうちクとして単位修得していない科目		
ジェネラルコース	サ～セから18科目以上履修し計36単位以上修得すること。 サ 国際関係専門科目群の全科目 シ 地域文化系専門科目群の全科目 ス 英語圏文化専門科目群の全科目 セ 指定された他学科専門科目の全科目	18	36

国際コミュニケーション学科履修規定(2019(平成31)年度～2022(令和4)年度入学者)

国際コミュニケーション学科の学生は、後に示す国際コミュニケーション学科履修方法一覧（B－3表）に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上修得しなければならない。国際関係専門科目群、地域文化系専門科目群、英語圏文化専門科目群および指定された他学科専門科目については、国際コミュニケーション学科履修方法付表（B－4表）に従って履修しなければならない。

原則として科目の重複履修は認めない（ジェネラルコースの外国語演習Ⅰ・Ⅱの履修については例外とする）。重複履修とは、単位修得済みの科目を再度履修登録することをいう。

1. コース登録

第5セメスター以降、国際コミュニケーション学科の学生は、国際関係コース、地域文化コース、英語圏文化コース、ジェネラルコース（専門演習科目群を選択しないコース）の4つのコースに分かれる。学生はそれらのうち1つを選択しなければならない。

学生は第4セメスター中にコースを選択し、「コース登録願」を提出しなければならない。なお、登録したコースの変更は原則として認めない。

教職課程履修者は英語圏文化コースに登録しなければならない。

〔国際関係コース〕

政治、経済・経営、法律、マスメディアなどの社会科学分野を中心として、国際関係と国際協力について理論的、実践的に研究するコース。

〔地域文化コース〕

ヨーロッパの各地域、アジアの各地域の言語、文化、歴史を主要な対象として、人文学的アプローチを中心に研究するコース。

〔英語圏文化コース〕

英語を用いたコミュニケーションと文学を広く英語圏文化の文脈に位置づけながら、人文学的アプローチを中心に研究するコース。

〔ジェネラルコース〕

英語の運用能力を高めつつ国際コミュニケーションについて広く学び、国際文化交流のための語学力と教養を身につけるコース。このコースの学生は国際コミュニケーション演習と卒業研究・卒業論文を履修しない。

2. 必修・必修選択科目——専門科目（基礎科目群）

専門科目一覧表の中から、B－3表に示す科目群ごとの規定に従って、14科目以上履修し計28単位以上修得しなければならない。なお、基礎演習科目群のみならず、国際関係基礎科目群、地域文化系基礎科目群および英語圏文化基礎科目群に属する科目は、1、2年次において優先して履修すること。

〈国際コミュニケーション基礎演習科目群〉

国際コミュニケーション基礎演習（以下、基礎演習という。）を4科目履修し計8単位修得しなければならない。

- ①基礎演習は、1、2年次の各セメスターに原則としてⅠ～Ⅳの順でそれぞれ1科目ずつ履修すること。
- ②基礎演習の4科目はそれぞれ異なる担当者（※それぞれ異なるアルファベット）の科目を履修すること。
- ③再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈国際関係基礎科目群／地域文化系基礎科目群／英語圏文化基礎科目群〉

国際関係基礎科目群、地域文化系基礎科目群、英語圏文化基礎科目群から8科目以上履修し計16単位以上修得しなければならない。

〈英語演習基礎科目群〉

2年次に、英語演習Ⅰ・Ⅱを履修し計4単位修得しなければならない。教職課程履修者は英語演習Ⅰ（Conversation & Presentation）・英語演習Ⅱ（Reading & Writing）を必修とする。

3年次以降に再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

3. 必修・必修選択科目——専門科目（発展科目群）

専門科目一覧表の中から、B-3表およびB-4表に示す科目群ごとの規定に従って、19科目以上履修し計44単位以上修得しなければならない。ただし、ジェネラルコースの学生は22科目以上履修し計44単位以上修得しなければならない。

〈国際関係専門科目群／地域文化系専門科目群／英語圏文化専門科目群／指定された他学科専門科目〉

それぞれのコースごとに、B-4表に従って12科目以上履修し計24単位以上修得しなければならない。

ジェネラルコースの学生のみ、18科目以上履修し計36単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室に確認すること。

〈外国語演習専門科目群〉

3年次に、外国語演習Ⅰ・Ⅱを履修し計4単位修得しなければならない。ただし、英語圏文化コースの学生は外国語演習Ⅰ（英語圏文化）・外国語演習Ⅱ（英語圏文化）を必修とする。

ジェネラルコースの学生のみ、3年次に必修となっている外国語演習Ⅰ・Ⅱに加えて、4年次においてさらに外国語演習Ⅰ・Ⅱ（単位修得済みのクラスを除く）を2科目履修し、計8単位修得しなければならない。

4年次以降に再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈国際コミュニケーション専門演習科目群〉

国際関係コース、地域文化コース、英語圏文化コースの学生は、国際コミュニケーション演習（以下、専門演習という。）を4科目履修し計8単位修得し、かつ卒業研究または卒業論文を履修し8単位修得しなければならない。

専門演習を選択するためには、原則として、第3セメスターまでに48単位以上修得していなければならない。これを満たしていない場合は、希望する専門演習の担当教員に個別に相談すること。また、休学をした場合は、専門演習申請時に36単位以上修得していなければならない。修得していない場合は、ジェネラルコースを選択するか、卒業を1年遅らせることを前提に翌年度に専門演習を申請すること。

- ① 3、4年次において、原則として同じ担当者の専門演習Ⅰ～Ⅳを履修し、かつ4年次に卒業研究または卒業論文のうち1科目を選択すること。卒業研究または卒業論文の履修登録は提出する学期の履修登録期間に行うこと。
- ② 国際関係コースの学生は、国際コミュニケーション演習Ⅰ～ⅣのA、C、E、G、J、K、M、P、Q、R、S、T、V、W、Xのいずれかを選択すること。
- ③ 地域文化コースの学生は、国際コミュニケーション演習Ⅰ～ⅣのA、C、D、F、H、I、K、N、P、S、U、V、W、Xのいずれかを選択すること。
- ④ 英語圏文化コースの学生は、国際コミュニケーション演習Ⅰ～ⅣのB、E、J、L、O、R、V、Wのいずれかを選択すること。特に教職課程履修者はB、E、J、L、O、Rのいずれかを選択すること。

⑤ジェネラルコースの学生は、専門演習と卒業研究・卒業論文を履修することができない。

4. 必修・必修選択科目——共通科目

共通科目一覧表の中から、B－3表に示す科目群ごとの規定に従って、17科目以上履修し計34単位以上修得しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

5. 自由選択科目

B－3表に示された科目群（あるいは科目）の中から選択のうえ履修し計28単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室に確認すること。

6. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

7. 教職課程・司書課程・学芸員課程の履修について

各課程のガイダンス等で示される履修指導に従うこと。

B-3表：国際コミュニケーション学科履修方法一覧（括弧内はジェネラルコース）

区 分		科 目 群 名		必 修		必修選択		合 計		総単 位数			
				科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数				
必修・必修 選択 科目	専 門 科 目	基 礎 科 目 群	国際コミュニケーション基礎演習科目群		4	8			14	28	72		
			国際関係基礎科目群				8	16					
			地域文化系基礎科目群										
			英語圏文化基礎科目群										
			英語演習基礎科目群		2	4							
		発 展 科 目 群	国際関係専門科目群*				12 (18)	24 (36)	19 (22)	44			
			地域文化系専門科目群*										
			英語圏文化専門科目群*										
			指定された他学科専門科目*										
			外国語演習専門科目群		2 (4)	4 (8)							
		国際コミュニケーション 専門演習科目群	4 (0)	8 (0)									
			1 (0)	8 (0)									
		卒業研究・卒業論文											
	共 通 科 目	外国語科目1群		7	14			17			34	34	
		情報技術科目群				2	4						
		日本語表現法科目群				1	2						
		特別総合科目群				3	6						
		国際文化交流論科目群											
		国際文化交流演習科目群											
		共通基礎科目群				2	4						
	人間・環境系科目群				2	4							
自由 選択 科目	共 通 科 目	外国語科目2群											
		スポーツ・健康科学演習科目群											
		伝統文化演習科目群											
		生活文化演習科目群											
		社会演習科目群											
		多文化学際科目群											
		共通科目の必修・必修選択科目として必要な34単位を超える共通科目											
	専 門 他	専門科目として必要な72単位を超える国際コミュニケーション学科の専門科目											
		日本文化学科の専門科目											
そ の 他	英語コミュニケーション学科の専門科目												
	教職課程に関する科目のうち、指定された科目（P234参照）												
	データサイエンス教育プログラム専門科目												
	f-Campus提供科目												
		学習院大学特別聴講科目											
		国外大学科目											
		外国語認定科目											
修 得 単 位 数					総計134単位以上								

B-4表：国際コミュニケーション学科履修方法付表

選択コース	国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群・指定された他学科専門科目（必修選択）	合計	
		科目数	単位数
国際関係コース	アから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。イ・ウから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 ア 国際関係専門科目群の全科目 イ 地域文化系専門科目群の全科目 ウ 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ イギリス文化論Ⅰ・Ⅱ オセアニア文化論	12	24
地域文化コース	エ・オから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。カ・キから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 エ 地域文化系専門科目群の全科目 オ 英語圏文化専門科目群の全科目 カ 国際関係専門科目群の全科目 キ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本文化政策論Ⅰ・Ⅱ 比較文化論Ⅰ～Ⅶ・Ⅹ		
英語圏文化コース	クから①～③の要件をすべて満たして6科目以上履修し計12単位以上修得すること。ケから6科目以上履修し計12単位以上修得すること。 ク 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 ①英語学Ⅲ・Ⅳ、日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ②アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ、イギリス文化論Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ③アメリカ文学論、アメリカ文学研究、イギリス文学論、イギリス文学研究から2科目以上履修し計4単位以上修得すること ケ 英語圏文化専門科目群のうちクとして単位修得していない科目		
ジェネラルコース	サ～セから18科目以上履修し計36単位以上修得すること。 サ 国際関係専門科目群の全科目 シ 地域文化系専門科目群の全科目 ス 英語圏文化専門科目群の全科目 セ 指定された他学科専門科目の全科目	18	36

国際コミュニケーション学科履修規定（2018（平成30）年度入学者）

国際コミュニケーション学科の学生は、後に示す国際コミュニケーション学科履修方法一覧（B－5表）に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上修得しなければならない。国際関係専門科目群、地域文化系専門科目群、英語圏文化専門科目群および指定された他学科専門科目については、国際コミュニケーション学科履修方法付表（B－6表）に従って履修しなければならない。

原則として科目の重複履修は認めない（ジェネラルコースの外国語演習Ⅰ・Ⅱの履修については例外とする）。重複履修とは、単位修得済みの科目を再度履修登録することをいう。

1. コース登録

第5セメスター以降、国際コミュニケーション学科の学生は、国際関係コース、地域文化コース、英語圏文化コース、ジェネラルコース（専門演習科目群を選択しないコース）の4つのコースに分かれる。学生はそれらのうち1つを選択しなければならない。

学生は第4セメスター中にコースを選択し、「コース登録願」を提出しなければならない。なお、登録したコースの変更は原則として認めない。

教職課程履修者は英語圏文化コースに登録しなければならない。

〔国際関係コース〕

政治、経済・経営、法律、マスメディアなどの社会科学分野を中心として、国際関係と国際協力について理論的、実践的に研究するコース。

〔地域文化コース〕

ヨーロッパの各地域、アジアの各地域の言語、文化、歴史を主要な対象として、人文学的アプローチを中心に研究するコース。

〔英語圏文化コース〕

英語を用いたコミュニケーションと文学を広く英語圏文化の文脈に位置づけながら、人文学的アプローチを中心に研究するコース。

〔ジェネラルコース〕

英語の運用能力を高めつつ国際コミュニケーションについて広く学び、国際文化交流のための語学力と教養を身につけるコース。このコースの学生は国際コミュニケーション演習と卒業研究・卒業論文を履修しない。

2. 必修・必修選択科目——専門科目（基礎科目群）

専門科目一覧表の中から、B－5表に示す科目群ごとの規定に従って、14科目以上履修し計28単位以上修得しなければならない。なお、基礎演習科目群のみならず、国際関係基礎科目群、地域文化系基礎科目群および英語圏文化基礎科目群に属する科目は、1、2年次において優先して履修すること。

〈国際コミュニケーション基礎演習科目群〉

国際コミュニケーション基礎演習（以下、基礎演習という。）を4科目履修し計8単位修得しなければならない。

- ①基礎演習は、1、2年次の各セメスターに原則としてⅠ～Ⅳの順でそれぞれ1科目ずつ履修すること。
- ②基礎演習の4科目はそれぞれ異なる担当者（※それぞれ異なるアルファベット）の科目を履修すること。
- ③再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈国際関係基礎科目群／地域文化系基礎科目群／英語圏文化基礎科目群〉

国際関係基礎科目群、地域文化系基礎科目群、英語圏文化基礎科目群から8科目以上履修し計16単位以上修得しなければならない。

〈英語演習基礎科目群〉

2年次に、英語演習Ⅰ・Ⅱを履修し計4単位修得しなければならない。教職課程履修者は英語演習Ⅰ（Conversation & Presentation）・英語演習Ⅱ（Reading & Writing）を必修とする。

3年次以降に再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

3. 必修・必修選択科目——専門科目（発展科目群）

専門科目一覧表の中から、B－5表およびB－6表に示す科目群ごとの規定に従って、19科目以上履修し計44単位以上修得しなければならない。ただし、ジェネラルコースの学生は22科目以上履修し計44単位以上修得しなければならない。

〈国際関係専門科目群／地域文化系専門科目群／英語圏文化専門科目群／指定された他学科専門科目〉

それぞれのコースごとに、B－6表に従って12科目以上履修し計24単位以上修得しなければならない。

ジェネラルコースの学生のみ、18科目以上履修し計36単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室に確認すること。

〈外国語演習専門科目群〉

3年次に、外国語演習Ⅰ・Ⅱを履修し計4単位修得しなければならない。ただし、英語圏文化コースの学生は外国語演習Ⅰ（英語圏文化）・外国語演習Ⅱ（英語圏文化）を必修とする。

ジェネラルコースの学生のみ、3年次に必修となっている外国語演習Ⅰ・Ⅱに加えて、4年次においてさらに外国語演習Ⅰ・Ⅱ（単位修得済みのクラスを除く）を2科目履修し、計8単位修得しなければならない。

4年次以降に再履修となる学生は学科事務室に申し出ること。

〈国際コミュニケーション専門演習科目群〉

国際関係コース、地域文化コース、英語圏文化コースの学生は、国際コミュニケーション演習（以下、専門演習という。）を4科目履修し計8単位修得し、かつ卒業研究または卒業論文を履修し8単位修得しなければならない。

専門演習を選択するためには、原則として、第3セメスターまでに48単位以上修得していなければならない。これを満たしていない場合は、希望する専門演習の担当教員に個別に相談すること。また、休学をした場合は、専門演習申請時に36単位以上修得していなければならない。修得していない場合は、ジェネラルコースを選択するか、卒業を1年遅らせることを前提に翌年度に専門演習を申請すること。

- ① 3、4年次において、原則として同じ担当者の専門演習Ⅰ～Ⅳを履修し、かつ4年次に卒業研究または卒業論文のうち1科目を選択すること。卒業研究または卒業論文の履修登録は提出する学期の履修登録期間に行うこと。
- ② 国際関係コースの学生は、国際コミュニケーション演習Ⅰ～ⅣのA、C、E、G、J、K、M、P、Q、R、S、T、V、W、Xのいずれかを選択すること。
- ③ 地域文化コースの学生は、国際コミュニケーション演習Ⅰ～ⅣのA、C、D、F、H、I、K、N、P、S、U、V、W、Xのいずれかを選択すること。
- ④ 英語圏文化コースの学生は、国際コミュニケーション演習Ⅰ～ⅣのB、E、J、L、O、R、V、Wのいずれかを選択すること。特に教職課程履修者はB、J、O、Rのいずれかを選択すること。
- ⑤ ジェネラルコースの学生は、専門演習と卒業研究・卒業論文を履修することができない。

4. 必修・必修選択科目——共通科目

共通科目一覧表の中から、B－5表に示す科目群ごとの規定に従って、17科目以上履修し計34単位以上修得しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

5. 自由選択科目

B－5表に示された科目群（あるいは科目）の中から選択のうえ履修し計28単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室に確認すること。

6. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

7. 教職課程・司書課程・学芸員課程の履修について

各課程のガイダンス等で示される履修指導に従うこと。

B-5表：国際コミュニケーション学科履修方法一覧（括弧内はジェネラルコース）

区 分		科 目 群 名		必 修 科目数 単位		必修選択 科目数 単位		合 計 科目数 単位		総単 位数			
必修・必修 選択科目	専 門 科 目	基礎 科目 群	国際コミュニケーション基礎演習科目群		4	8			14	28	72		
			国際関係基礎科目群										
			地域文化系基礎科目群				8	16					
			英語圏文化基礎科目群										
			英語演習基礎科目群		2	4							
		発展 科目 群	国際関係専門科目群*						12 (18)	24 (36)		19 (22)	44
			地域文化系専門科目群*										
			英語圏文化専門科目群*										
			指定された他学科専門科目*										
			外国語演習専門科目群		2 (4)	4 (8)							
		国際コミュニケーション 専門演習科目群	国際コミュニケーション演習				4 (0)	8 (0)					
			卒業研究・卒業論文				1 (0)	8 (0)					
	共 通 科 目	外国語科目1群		7	14			17	34	34			
		情報技術科目群		2	4								
		日本語表現法科目群		1	2								
		特別総合科目群											
		国際文化交流論科目群				3	6						
		国際文化交流演習科目群											
		共通基礎科目群				2	4						
	人間・環境系科目群				2	4							
自由選 択科目	共 通 科 目	外国語科目2群											
		スポーツ・健康科学演習科目群											
		伝統文化演習科目群											
		生活文化演習科目群											
		社会演習科目群											
		多文化学際科目群											
		共通科目の必修・必修選択科目として必要な34単位を超える共通科目											
	専 門 他	専門科目として必要な72単位を超える国際コミュニケーション学科の専門科目											
		日本文化学科の専門科目											
そ の 他	英語コミュニケーション学科の専門科目												
	データサイエンス教育プログラム専門科目												
	f-Campus提供科目												
		学習院大学特別聴講科目											
		国外大学科目											
		外国語認定科目											
修 得 単 位 数					総計134単位以上								

* B-6表に従って履修すること。

B-6表：国際コミュニケーション学科履修方法付表

選択コース	国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群・指定された他学科専門科目（必修選択）	合計	
		科目数	単位数
国際関係コース	アから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。イ・ウから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 ア 国際関係専門科目群の全科目 イ 地域文化系専門科目群の全科目 ウ 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ イギリス文化論Ⅰ・Ⅱ オセアニア文化論	12	24
地域文化コース	エ・オから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。カ・キから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 エ 地域文化系専門科目群の全科目 オ 英語圏文化専門科目群の全科目 カ 国際関係専門科目群の全科目 キ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本文化政策論Ⅰ・Ⅱ 比較文化論Ⅰ～Ⅶ・Ⅹ		
英語圏文化コース	クから①～③の要件をすべて満たして6科目以上履修し計12単位以上修得すること。ケ・コから6科目以上履修し計12単位以上修得すること。 ク 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 ①英語学Ⅲ・Ⅳ、日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ②アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ、イギリス文化論Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ③アメリカ文学論、アメリカ文学研究、イギリス文学論、イギリス文学研究から2科目以上履修し計4単位以上修得すること ケ 英語圏文化専門科目群のうちクとして単位修得していない科目 コ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 英語コミュニケーション特殊演習Ⅶ・Ⅷ Newspaper English A・B		
ジェネラルコース	サ～セから18科目以上履修し計36単位以上修得すること。 サ 国際関係専門科目群の全科目 シ 地域文化系専門科目群の全科目 ス 英語圏文化専門科目群の全科目 セ 指定された他学科専門科目の全科目	18	36

国際コミュニケーション学科履修規定(2015(平成27)年度～2017(平成29)年度入学者)

1. 必修・必修選択科目－専門科目

国際コミュニケーション学科の学生は専門科目一覧表の中から、B-7表に示す専門科目の科目群の規定に従って、56単位以上を修得しなければならない。なお、基礎演習科目群のみならず、国際関係基礎科目群及び地域文化系基礎科目群に属する科目は1、2年次において優先して履修すること。基礎科目群と専門科目群の単位数に特に注意すること。

原則として重複履修は認めない。但し、専門演習科目群を選択しない学生のみ、3年次に外国語演習Ⅰ・Ⅱを履修した後、4年次において外国語演習Ⅰ・Ⅱを重複履修するものとする。

〈基礎演習科目群〉

基礎演習科目群は、1、2年次において、国際コミュニケーション基礎演習Ⅰ～Ⅳについてそれぞれ1科目ずつ計4科目を履修すること。ただし、これらの4科目については異なる担当者の科目を履修しなければならない。

〈英語演習科目群〉

2年次に、英語演習Ⅰ・Ⅱを履修しなければならない。

〈外国語演習専門科目群〉

3年次に、外国語演習Ⅰ・Ⅱを履修しなければならない。

〈専門演習科目群〉

①専門演習を選択するためには、原則として、第3セメスターまでに48単位以上を修得していること。これを満たしていない場合は、希望する専門演習の担当教員に個別に相談すること。また、休学をした場合は、専門演習申請時に36単位以上修得していること。修得していない場合は、専門演習を選択しないコースに申請するか、卒業を1年遅らせることを前提に翌年度に専門演習を申請すること。

②専門演習科目群を選択する者は、3、4年次において、原則として同じ担当者の演習をⅠ～Ⅳについて1科目ずつ履修し、かつ4年次に卒業研究または卒業論文のうちいずれかを1科目選択すること。なお、卒業研究または卒業論文の履修登録は提出する学期の履修登録期間に行わなければならない。

③専門演習科目群を選択しない者は以下のとおり履修すること。

1. 国際関係専門科目群および地域文化系専門科目群から、卒業に必要な科目数および単位を越えて、6科目12単位以上を履修すること。
2. 3年次に必修となっている外国語演習Ⅰ・Ⅱとは別に、さらに外国語演習Ⅰ・Ⅱ（履修済みのクラスを除く）を4年次において計2科目4単位履修すること。

2. 必修・必修選択科目－共通科目

共通科目一覧表の中から、B-7表に示す科目群ごとの規定に従って、17科目34単位以上を修得しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

3. 自由選択科目

B-7表に示された科目群（あるいは科目）の中から選択のうえ履修し計44単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室担当者に確認すること。

4. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

2015（平成27）年度～2017（平成29）年度入学者用

国際コミュニケーション学科の学生は、次の履修方法一覧（B－7表）に従い、合計134単位以上を修得しなければならない。

B－7表：国際コミュニケーション学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		必 修 科目数 単位		必修選択 科目数 単位		合 計 科目数 単位			
必修・必修選択科目	専 門 科 目	基礎演習科目群		4	8			25 (28) ※	56		
		国際関係基礎科目群 地域文化系基礎科目群				8	16				
		英語演習基礎科目群		2	4						
		国際関係専門科目群 地域文化系専門科目群 指定された他学科専門科目				4	8				
		外国語演習専門科目群		2	4						
		①	専門演習科目群	国際コミュニケーション演習						4	8
				卒業研究・卒業論文						1	8
		②	国際関係専門科目群				6			12	
			地域文化系専門科目群								
	外国語演習専門科目群				2	4					
	共通科目	共 通 科 目	外国語科目 1 群		7	14			17	34	
			情報技術科目群		2	4					
			日本語表現法科目群		1	2					
特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群					3	6					
共通基礎科目群					2	4					
人間・環境系科目群					2	4					
自由選択科目			共通科目	外国語科目 2 群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 多文化学際科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な34単位を超える共通科目							
	専門他	専門科目として必要な56単位を超える国際コミュニケーション学科の専門科目 日本文化学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目									
		その他	f-Campus提供科目 学習院大学特別聴講科目 国外大学科目（平成29年度設置） 外国語認定科目								
修 得 単 位 数				総計134単位以上							

※ 合計科目数欄のカッコ書きは、②を選択した学生の科目数。

国際コミュニケーション学科履修規定(2020(令和2)年度以降3年次編入学者)

1. 必修・必修選択科目－専門科目

国際コミュニケーション学科の学生は専門科目一覧表の中から、B－8・10表に示す科目群の規定に従って、72単位以上を修得しなければならない。なお、基礎演習科目群のみならず、国際関係基礎科目群および地域文化系基礎科目群、英語圏文化基礎科目群に属する科目は優先して履修すること。基礎科目群と専門科目群の単位数に特に注意すること。

原則として重複履修は認めない。但し、専門演習科目群を選択しない学生のみ、3年次に外国語演習Ⅰ・Ⅱを履修した後、4年次において外国語演習Ⅰ・Ⅱを重複履修するものとする。

〈外国語演習専門科目群〉

3年次に、外国語演習Ⅰ・Ⅱを履修しなければならない。

〈専門演習科目群〉

①専門演習科目群を選択する者は、3、4年次において、原則として同じ担当者の演習をⅠ～Ⅳについて1科目ずつ履修し、かつ4年次に卒業研究または卒業論文のうちいずれかを1科目選択すること。なお、卒業研究または卒業論文の履修登録は提出する学期の履修登録期間に行わなければならない。

②専門演習科目群を選択しない者は以下のとおり履修すること。

1. 国際関係専門科目群および地域文化系専門科目群、英語圏文化基礎科目群から、卒業に必要な科目数および単位を越えて、18科目36単位以上を履修すること。
2. 3年次に必修となっている外国語演習Ⅰ・Ⅱとは別に、さらに外国語演習Ⅰ・Ⅱ（履修済みのクラスを除く）を4年次において計2科目4単位履修すること。

2. 必修・必修選択科目－共通科目

共通科目一覧表の中から、B－8・10表に示す科目群ごとの規定に従って、16科目32単位以上を修得しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

3. 自由選択科目

B－8・10表に示された科目群（あるいは科目）の中から選択のうえ履修し計30単位以上修得しなければならない。

英語コミュニケーション学科専門科目の履修については、英語コミュニケーション学科事務室担当者に確認すること。

4. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

2020（令和2）年度3年次編入学者用

国際コミュニケーション学科3年次に編入学した学生は、次の履修方法一覧（B－8表）に従い、合計134単位以上を修得しなければならない。国際関係専門科目群、地域文化系専門科目群、英語圏文化専門科目群および指定された他学科専門科目については、国際コミュニケーション学科履修方法付表（B－9表）に従って履修しなければならない。ただし他学校で修得した単位のうち、66単位を認定する。なお、教職課程科目に関しては、66単位のうちから認定することがある。

B－8表：国際コミュニケーション学科履修方法一覧（括弧内はジェネラルコース）

区 分			科 目 群 名	認 定		必 修		必修選択		合 計	
				科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
必修・必修選択科目	専 門 科 目 群	基礎科目群	国際コミュニケーション基礎演習科目群	4	8					14	28
		国際関係基礎科目群	2	4			6	12			
		地域文化系基礎科目群									
		英語圏文化基礎科目群									
	英語演習基礎科目群	2	4								
	発 展 科 目 群	国際関係専門科目群*					12 (18)	24 (36)	19 (22)	44	
		地域文化系専門科目群*									
		英語圏文化専門科目群*									
		指定された他学科専門科目*									
		外国語演習専門科目群			2 (4)	4 (8)					
		国際コミュニケーション 専門演習科目群					4 (0)	8 (0)			
		卒業研究・卒業論文					1 (0)	8 (0)			
	共 通 科 目	外国語科目1群	6	12	1	2			16	32	
情報技術科目群		2	4			3	6				
特別総合科目群											
国際文化交流論科目群											
国際文化交流演習科目群											
共通基礎科目群		1	2			1	2				
人間・環境系科目群	1	2			1	2					
自由選択科目	共通科目	外国語科目2群 日本語表現法科目群 スポーツ・健康科学演習科目群 伝統文化演習科目群 生活文化演習科目群 社会演習科目群 多文化学際科目群 共通科目の必修・必修選択科目として必要な32単位を超える共通科目	15	30					15	30	
	専門他	専門科目として必要な72単位を超える国際コミュニケーション学科の専門科目 日本文化学科の専門科目 英語コミュニケーション学科の専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目									
	その他	f-Campus提供科目 学習院大学特別聴講科目 国外大学科目 外国語認定科目									
修 得 単 位 数				総計134単位以上							

* B－9表に従って履修すること。

B-9表：国際コミュニケーション学科履修方法付表

選択コース	国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群・指定された他学科専門科目（必修選択）	合 計	
		科目数	単位数
国際関係コース	アから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。イ・ウから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 ア 国際関係専門科目群の全科目 イ 地域文化系専門科目群の全科目 ウ 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ イギリス文化論Ⅰ・Ⅱ オセアニア文化論	12	24
地域文化コース	エ・オから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。カ・キから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 エ 地域文化系専門科目群の全科目 オ 英語圏文化専門科目群の全科目 カ 国際関係専門科目群の全科目 キ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本文化政策論Ⅰ・Ⅱ 比較文化論Ⅰ～Ⅶ・Ⅹ		
英語圏文化コース	クから①～③の要件をすべて満たして6科目以上履修し計12単位以上修得すること。ケ・コから6科目以上履修し計12単位以上修得すること。 ク 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 ①英語学Ⅲ・Ⅳ、日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ②アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ、イギリス文化論Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ③アメリカ文学論、アメリカ文学研究、イギリス文学論、イギリス文学研究から2科目以上履修し計4単位以上修得すること ケ 英語圏文化専門科目群のうちクとして単位修得していない科目 コ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 英語コミュニケーション特殊演習Ⅶ・Ⅷ Newspaper English A・B		
ジェネラルコース	サ～セから18科目以上履修し計36単位以上修得すること。 サ 国際関係専門科目群の全科目 シ 地域文化系専門科目群の全科目 ス 英語圏文化専門科目群の全科目 セ 指定された他学科専門科目の全科目	18	36

2021（令和3）年度以降3年次編入学者用

国際コミュニケーション学科3年次に編入学した学生は、次の履修方法一覧（B-10表）に従い、合計134単位以上を修得しなければならない。国際関係専門科目群、地域文化系専門科目群、英語圏文化専門科目群および指定された他学科専門科目については、国際コミュニケーション学科履修方法付表（B-11表）に従って履修しなければならない。ただし他学校で修得した単位のうち、66単位を認定する。なお、教職課程科目に関しては、66単位のうちから認定することがある。

B-10表：国際コミュニケーション学科履修方法一覧（括弧内はジェネラルコース）

区 分				科 目 群 名		認 定		必 修		必修選択		合 計	
				科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
必修・必修 選択 科目	専 門 科 目 群	基礎 科目 群	国際コミュニケーション基礎演習科目群		4	8						14	28
			国際関係基礎科目群		2	4			6	12			
			地域文化系基礎科目群										
			英語圏文化基礎科目群										
			英語演習基礎科目群		2	4							
	専 門 科 目 群	発展 科目 群	国際関係専門科目群*						12 (18)	24 (36)	19 (22)	44	
			地域文化系専門科目群*										
			英語圏文化専門科目群*										
			指定された他学科専門科目*										
			外国語演習専門科目群				2 (4)	4 (8)					
	専 門 科 目 群		国際コミュニケーション 専門演習科目群	国際コミュニケーション 演習					4 (0)	8 (0)			
				卒業研究・卒業論文					1 (0)	8 (0)			
			共 通 科 目		外国語科目1群		6	12	1	2			
	情報技術科目群				2	4			3	6			
	特別総合科目群												
	国際文化交流論科目群												
	国際文化交流演習科目群												
	共 通 科 目		共通基礎科目群		1	2			1	2			
			人間・環境系科目群		1	2			1	2			
自由 選択 科目	共 通 科 目	外国語科目2群			15	30						15	30
		日本語表現法科目群											
		スポーツ・健康科学演習科目群											
		伝統文化演習科目群											
		生活文化演習科目群											
		社会演習科目群											
		多文化学際科目群											
	共通科目の必修・必修選択科目として必要な32単位を超える共通科目												
	専 門 他	専門科目として必要な72単位を超える国際コミュニケーション学科の専門科目											
		日本文化学科の専門科目											
英語コミュニケーション学科の専門科目													
そ の 他	教職課程に関する科目のうち、指定された科目 (P234参照)												
	データサイエンス教育プログラム専門科目												
	f-Campus提供科目												
そ の 他	学習院大学特別聴講科目												
	国外大学科目												
	外国語認定科目												
修 得 単 位 数					総計134単位以上								
109													

* B-11表に従って履修すること。

B-11表：国際コミュニケーション学科履修方法付表

選択コース	国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群・指定された他学科専門科目（必修選択）	合 計	
		科目数	単位数
国際関係コース	アから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。イ・ウから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 ア 国際関係専門科目群の全科目 イ 地域文化系専門科目群の全科目 ウ 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ イギリス文化論Ⅰ・Ⅱ オセアニア文化論	12	24
地域文化コース	エ・オから8科目以上履修し計16単位以上修得すること。カ・キから4科目以上履修し計8単位以上修得すること。 エ 地域文化系専門科目群の全科目 オ 英語圏文化専門科目群の全科目 カ 国際関係専門科目群の全科目 キ 指定された他学科専門科目のうち次の科目 日本文化政策論Ⅰ・Ⅱ 比較文化論Ⅰ～Ⅶ・Ⅹ		
英語圏文化コース	クから①～③の要件をすべて満たして6科目以上履修し計12単位以上修得すること。ケから6科目以上履修し計12単位以上修得すること。 ク 英語圏文化専門科目群のうち次の科目 ①英語学Ⅲ・Ⅳ、日本文化発信英語Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ②アメリカ文化論Ⅰ・Ⅱ、イギリス文化論Ⅰ・Ⅱから2科目以上履修し計4単位以上修得すること ③アメリカ文学論、アメリカ文学研究、イギリス文学論、イギリス文学研究から2科目以上履修し計4単位以上修得すること ケ 英語圏文化専門科目群のうちクとして単位修得していない科目		
ジェネラルコース	サ～セから18科目以上履修し計36単位以上修得すること。 サ 国際関係専門科目群の全科目 シ 地域文化系専門科目群の全科目 ス 英語圏文化専門科目群の全科目 セ 指定された他学科専門科目の全科目	18	36

英語コミュニケーション学科

英語コミュニケーション学科履修規定（2023（令和5）年度以降入学者）

英語コミュニケーション学科の学生は、後に示す英語コミュニケーション学科履修方法一覧（C-1表）に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上を修得しなければならない。

1. 専門科目

英語コミュニケーション学科の学生は専門科目一覧表の中から、C-1表に示す各科目群ごとに規定に従って、90単位以上を履修しなければならない。

原則として重複履修は認めない。

〈英語コミュニケーション基礎演習科目群〉

1・2年次において、英語コミュニケーション基礎演習Ⅰ、英語コミュニケーション基礎演習Ⅱ、英語コミュニケーション基礎演習Ⅲまたは英語コミュニケーション基礎演習Ⅳ（海外研修Aを履修する学生は英語コミュニケーション基礎演習Ⅳを、海外研修Bを履修する学生は英語コミュニケーション基礎演習Ⅲを履修すること）をそれぞれ1科目ずつ計3科目、並びにCultural Exchange（2年次1科目2単位）及び海外研修（2年次1科目16単位）を履修しなければならない。海外研修Aあるいは海外研修Bの履修についての決定は、1年次秋学期中に各学生に通知するものとする。ただし成績や英語レベル、レスブリッジ大学または本学の判断により参加が認められない場合もある。また学生としての本分に反する行為があった際にも参加は認められない。

またCultural Exchange AまたはBは海外研修AまたはBに付随する科目のため、研修を行う学期によって、履修する学期が決定される（春学期に海外研修Aを履修する学生は、Cultural Exchange Aを、秋学期に海外研修Bを履修する学生はCultural Exchange Bを履修するものとする）。

なお、海外研修中にレスブリッジ大学で履修するEnglish for Academic Purposes（EAP）以外の科目については、国外大学科目として1科目を2単位と認める。ただしその上限は3科目6単位とする。

また、海外研修を終えたら、速やかに帰国しなければならない。

〈英語コミュニケーション英語演習基礎科目群〉

1年次において、TOEIC Basics及びTOEIC Skills、Paragraph Writing及びEssay Writing、Writing Practice及びWriting Skillsの6科目12単位を履修し、2年次において、Academic Writing、Presentations、Listening Practice、Listening Skillsの4科目8単位とDiscussing Global Issuesもしくは、Discussing Business Issuesのいずれか1科目2単位、1、2年次合わせて11科目22単位を履修しなければならない。

※TOEIC Basics及びTOEIC Skillsについては技能審査としてTOEIC Listening & Reading Testのスコアにより単位が認定されるので、有資格者は履修要項（単位認定）規定に従って手続きをすること。

（TOEIC Basics：700点以上、TOEIC Skills：750点以上）

〈英語コミュニケーション英語演習専門科目群〉

3年次春学期において、Debate A、Business Presentations A、Business Writing A、Discussing Current Issues A、Newspaper English A、In-Depth News Listening Aのうちから計2科目4単位を履修しなければならない。

加えて3年次秋学期において、Debate B、Business Presentations B、Business Writing B、Discussing Current Issues B、Newspaper English B、In-Depth News Listening Bのうちから3年次

春学期とは科目名が異なる科目を計2科目4単位を履修しなければならない。そのため合計4科目8単位を履修しなければならない。

〈英語コミュニケーション専門演習科目群〉

3年次において、特殊演習科目から計2科目4単位を履修しなければならない。

加えて、次のいずれかを履修しなければならない。

- ① 3・4年次において、英語コミュニケーション演習科目から、原則として同じ担当者の演習をⅠ～Ⅳについて各1科目ずつ履修し、計4科目8単位を履修しなければならない。且つ4年次に卒業研究または卒業論文のいずれか1科目選択すること。
- ② Registered Credit Course (R.C.C.) を選択する者は、以下のとおり履修すること。(①を履修しない場合)
 1. 3年次に必修になっている英語コミュニケーション英語演習専門科目・特殊演習科目とは別に、3・4年次において同科目（履修済みクラスを除く）からさらに2科目4単位を履修すること。
 2. 特別総合科目群、国際文化交流論科目群、国際文化交流演習科目群、共通基礎科目群、人間・環境系科目群、多文化学際科目群から6科目12単位を履修すること。

〈国際コミュニケーション学科国際関係基礎科目群・地域文化系基礎科目群・英語圏文化基礎科目群〉

国際コミュニケーション学科国際関係基礎科目群・地域文化系基礎科目群・英語圏文化基礎科目群から4科目8単位を履修しなければならない。1・2年次になるべく履修すること。

〈国際コミュニケーション学科国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群〉

2・3・4年次において、国際コミュニケーション学科国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群から4科目8単位を履修しなければならない。

2. 必修・必修選択科目——共通科目

共通科目一覧表の中から、C-1表に示す科目群ごとの規定に従って、19科目計38単位以上を履修しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

3. 自由選択科目

C-1表に示された自由選択科目の中から3科目6単位以上を履修しなければならない。

4. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

5. 教職課程・司書課程・学芸員課程の履修について

各課程のガイダンス等で示される履修指導に従うこと。

C-1表：英語コミュニケーション学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		必 修 科目数 単位		必修選択 科目数 単位		合 計 科目数 単位				
必修・必修 選択科目	専 門 科 目	英語コミュニケーション基礎演習科目群		英語コミュニケーション基礎演習				3	6	①35 ②38	90	
				Cultural Exchange		1	2					
				海外研修		1	16					
		英語コミュニケーション英語演習基礎科目群		10	20	1	2					
		国際コミュニケーション学科・国際関係基礎科目群						4	8			
		国際コミュニケーション学科・地域文化系基礎科目群										
		国際コミュニケーション学科・英語圏文化基礎科目群										
		国際コミュニケーション学科・国際関係専門科目群						4	8			
		国際コミュニケーション学科・地域文化系専門科目群										
		国際コミュニケーション学科・英語圏文化専門科目群										
		英語コミュニケーション英語演習専門科目群				4	8					
		英語コミュニケーション専門演習科目群		特殊演習				2	4			
		①	英語コミュニケーション専門演習科目群		英語コミュニケーション演習		4	8				
					卒業研究・卒業論文		1	8				
		②	英語コミュニケーション英語演習専門科目群						2			4
			特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群 共通基礎科目群 人間・環境系科目群 多文化学際科目群						6			12
	共 通 科 目	外国語科目1群		7	14					19	38	
		情報技術科目群						2	4			
		日本語表現法科目群						1	2			
		特別総合科目群										
		国際文化交流論科目群						3	6			
		国際文化交流演習科目群										
		共通基礎科目群						3	6			
		人間・環境系科目群						2	4			
多文化学際科目群						1	2					
自由 選択科目	共 通 科 目	外国語科目2群										
		スポーツ・健康科学演習科目群										
		伝統文化演習科目群										
		生活文化演習科目群										
		社会演習科目群										
		共通科目の必修・必修選択科目として必要な38単位を超える共通科目										
	専 門 他	専門科目として必要な90単位を超える英語コミュニケーション学科の専門科目										
		国際コミュニケーション学科の専門科目										
		日本文化学科の専門科目										
		教職課程に関する科目のうち、指定された科目（P234参照）										
そ の 他	日本語教員養成講座専門科目											
	データサイエンス教育プログラム専門科目											
そ の 他	f-Campus提供科目											
	学習院大学特別聴講科目											
	国外大学科目（平成29年度設置）											
	外国語認定科目											
修 得 単 位 数				総 計				134単位以上				

①ゼミ選択者 ②R.C.C.選択者

英語コミュニケーション学科履修規定(2019(平成31)年度～2022(令和4)年度入学者)

英語コミュニケーション学科の学生は、後に示す英語コミュニケーション学科履修方法一覧(C-2表)に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上を修得しなければならない。

1. 専門科目

英語コミュニケーション学科の学生は専門科目一覧表の中から、C-2表に示す各科目群ごとに規定に従って、90単位以上を履修しなければならない。

原則として重複履修は認めない。

〈英語コミュニケーション基礎演習科目群〉

1・2年次において、英語コミュニケーション基礎演習Ⅰ、英語コミュニケーション基礎演習Ⅱ、英語コミュニケーション基礎演習Ⅲまたは英語コミュニケーション基礎演習Ⅳ(海外研修Aを履修する学生は英語コミュニケーション基礎演習Ⅳを、海外研修Bを履修する学生は英語コミュニケーション基礎演習Ⅲを履修すること)をそれぞれ1科目ずつ計3科目、並びにCultural Exchange(2年次1科目2単位)及び海外研修(2年次1科目16単位)を履修しなければならない。海外研修Aあるいは海外研修Bの履修についての決定は、1年次秋学期中に各学生に通知するものとする。ただし成績や英語レベル、レスブリッジ大学または本学の判断により参加が認められない場合もある。また学生としての本分に反する行為があった際にも参加は認められない。

またCultural Exchange AまたはBは海外研修AまたはBに付随する科目のため、研修を行う学期によって、履修する学期が決定される(春学期に海外研修Aを履修する学生は、Cultural Exchange Aを、秋学期に海外研修Bを履修する学生はCultural Exchange Bを履修するものとする)。

なお、海外研修中にレスブリッジ大学で履修するEnglish for Academic Purposes(EAP)以外の科目については、国外大学科目として1科目を2単位と認める。ただしその上限は3科目6単位とする。

また、海外研修を終えたら、速やかに帰国しなければならない。

〈英語コミュニケーション英語演習基礎科目群〉

1年次において、TOEIC Basics及びTOEIC Skills、Paragraph Writing及びEssay Writing、Writing Practice及びWriting Skillsの6科目12単位を履修し、2年次において、Academic Writing、Presentations、Listening Practice、Listening Skillsの4科目8単位とDiscussing Global Issuesもしくは、Discussing Business Issuesのいずれか1科目2単位、1、2年次合わせて11科目22単位を履修しなければならない。

※TOEIC Basics及びTOEIC Skillsについては技能審査としてTOEIC Listening & Reading Testのスコアにより単位が認定されるので、有資格者は履修要項(単位認定)規定に従って手続きをすること。

(TOEIC Basics:700点以上、TOEIC Skills:750点以上)

〈英語コミュニケーション英語演習専門科目群〉

3年次春学期において、Debate A、Business Presentations A、Business Writing A、Discussing Current Issues A、Newspaper English A、In-Depth News Listening Aのうちから計2科目4単位を履修しなければならない。

加えて3年次秋学期において、Debate B、Business Presentations B、Business Writing B、Discussing Current Issues B、Newspaper English B、In-Depth News Listening Bのうちから3年次

春学期とは科目名が異なる科目を計2科目4単位を履修しなければならない。そのため合計4科目8単位を履修しなければならない。

〈英語コミュニケーション専門演習科目群〉

3年次において、特殊演習科目から計2科目4単位を履修しなければならない。

加えて、次のいずれかを履修しなければならない。

- ① 3・4年次において、英語コミュニケーション演習科目から、原則として同じ担当者の演習をⅠ～Ⅳについて各1科目ずつ履修し、計4科目8単位を履修しなければならない。且つ4年次に卒業研究または卒業論文のいずれか1科目選択すること。
- ② Registered Credit Course (R.C.C.) を選択する者は、以下のとおり履修すること。(①を履修しない場合)
 1. 3年次に必修になっている英語コミュニケーション英語演習専門科目・特殊演習科目とは別に、3・4年次において同科目（履修済みクラスを除く）からさらに2科目4単位を履修すること。
 2. 特別総合科目群、国際文化交流論科目群、国際文化交流演習科目群、共通基礎科目群、人間・環境系科目群から6科目12単位を履修すること。

〈国際コミュニケーション学科国際関係基礎科目群・地域文化系基礎科目群・英語圏文化基礎科目群〉

国際コミュニケーション学科国際関係基礎科目群・地域文化系基礎科目群・英語圏文化基礎科目群から4科目8単位を履修しなければならない。1・2年次になるべく履修すること。

〈国際コミュニケーション学科国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群〉

2・3・4年次において、国際コミュニケーション学科国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群から4科目8単位を履修しなければならない。

2. 必修・必修選択科目——共通科目

共通科目一覧表の中から、C-2表に示す科目群ごとの規定に従って、18科目計36単位以上を履修しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

3. 自由選択科目

C-2表に示された自由選択科目の中から4科目8単位以上を履修しなければならない。

4. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

5. 教職課程・司書課程・学芸員課程の履修について

各課程のガイダンス等で示される履修指導に従うこと。

C-2表：英語コミュニケーション学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		必 修 科目数 単位		必修選択 科目数 単位		合 計 科目数 単位			
必修・必修 選択科目	専 門 科 目	英語コミュニケーション基礎演習科目群		英語コミュニケーション基礎演習				3	6	①35 ②38	90
				Cultural Exchange		1	2				
				海外研修		1	16				
		英語コミュニケーション英語演習基礎科目群		10	20	1	2				
		国際コミュニケーション学科・国際関係基礎科目群				4	8				
		国際コミュニケーション学科・地域文化系基礎科目群									
		国際コミュニケーション学科・英語圏文化基礎科目群									
		国際コミュニケーション学科・国際関係専門科目群				4	8				
		国際コミュニケーション学科・地域文化系専門科目群									
		国際コミュニケーション学科・英語圏文化専門科目群									
	目	英語コミュニケーション英語演習専門科目群				4	8	18	36		
		英語コミュニケーション専門演習科目群		特殊演習						2	4
				英語コミュニケーション専門演習科目群		4	8				
		①		英語コミュニケーション演習		1	8				
				卒業研究・卒業論文							
		英語コミュニケーション英語演習専門科目群				2	4				
				英語コミュニケーション専門演習科目群							
		②		特別総合科目群						6	12
	国際文化交流論科目群										
	国際文化交流演習科目群										
	共通基礎科目群										
	共 通 科 目	人間・環境系科目群									
		外国語科目1群		7	14			18	36		
		情報技術科目群				2	4				
		日本語表現法科目群				1	2				
		特別総合科目群				3	6				
		国際文化交流論科目群									
国際文化交流演習科目群											
共通基礎科目群				3	6						
人間・環境系科目群				2	4						
自由 選択科目	共 通 科 目	外国語科目2群									
		スポーツ・健康科学演習科目群									
		伝統文化演習科目群									
		生活文化演習科目群									
		社会演習科目群									
		多文化学際科目群									
	共通科目の必修・必修選択科目として必要な36単位を超える共通科目										
	専 門 他	専門科目として必要な90単位を超える英語コミュニケーション学科の専門科目									
		国際コミュニケーション学科の専門科目									
日本文化学科の専門科目											
教職課程に関する科目のうち、指定された科目（P234参照）											
そ の 他	データサイエンス教育プログラム専門科目										
	f-Campus提供科目										
	学習院大学特別聴講科目										
外国語認定科目											
修 得 単 位 数				総計				134単位以上			

①ゼミ選択者 ②R.C.C.選択者

英語コミュニケーション学科履修規定（2018（平成30）年度入学者）

英語コミュニケーション学科の学生は、後に示す英語コミュニケーション学科履修方法一覧（C-3表）に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上を修得しなければならない。

1. 専門科目

英語コミュニケーション学科の学生は専門科目一覧表の中から、C-3表に示す各科目群ごとに規定に従って、90単位以上を履修しなければならない。

原則として重複履修は認めない。

〈英語コミュニケーション基礎演習科目群〉

1・2年次において、英語コミュニケーション基礎演習Ⅰ、英語コミュニケーション基礎演習Ⅱ、英語コミュニケーション基礎演習Ⅲまたは英語コミュニケーション基礎演習Ⅳ（海外研修Aを履修する学生は英語コミュニケーション基礎演習Ⅳを、海外研修Bを履修する学生は英語コミュニケーション基礎演習Ⅲを履修すること）をそれぞれ1科目ずつ計3科目、並びにCultural Exchange（2年次1科目2単位）及び海外研修（2年次1科目16単位）を履修しなければならない。海外研修Aあるいは海外研修Bの履修についての決定は、1年次秋学期中に各学生に通知するものとする。ただし成績や英語レベルにより、参加が認められない場合もある。

またCultural Exchange AまたはBは海外研修AまたはBに付随する科目のため、研修を行う学期によって、履修する学期が決定される（春学期に海外研修Aを履修する学生は、Cultural Exchange Aを、秋学期に海外研修Bを履修する学生はCultural Exchange Bを履修するものとする）。

なお、海外研修中にレスブリッジ大学で履修するEnglish for Academic Purposes（EAP）以外の科目については、国外大学科目として1科目を2単位と認める。ただしその上限は3科目6単位とする。

また、海外研修を終えたら、速やかに帰国しなければならない。

英語コミュニケーション学科必修科目である「海外研修」直後の学期の履修登録上限単位数は、「海外研修」の成績（GPA）ではなく、「海外研修」直前の学期の成績（GPA）を基準とする。（海外研修Aに参加する学生は1年次秋学期の成績（GPA）を、海外研修Bに参加する学生は2年次春学期の成績（GPA）が「海外研修」直後の学期の履修登録上限数の基準となる。）

〈英語コミュニケーション英語演習基礎科目群〉

1年次において、TOEIC Basics及びTOEIC Skills、Paragraph Writing及びEssay Writing、Writing Practice及びWriting Skillsの6科目12単位を履修し、2年次において、Academic Writing、Presentations、Listening Practice、Listening Skillsの4科目8単位とDiscussing Global Issuesもしくは、Discussing Business Issuesのいずれか1科目2単位、1・2年次合わせて11科目22単位を履修しなければならない。

※TOEIC Basics及びTOEIC Skillsについては技能審査としてTOEIC Listening & Reading Testのスコアにより単位が認定されるので、有資格者は履修要項（単位認定）規定に従って手続きをすること。

（TOEIC Basics：700点以上、TOEIC Skills：750点以上）

〈英語コミュニケーション英語演習専門科目群〉

3年次春学期において、Debate A、Business Presentations A、Business Writing A、Discussing Current Issues A、Newspaper English A、In-Depth News Listening Aのうちから計2科目4単

位を履修しなければならない。

加えて3年次秋学期において、Debate B、Business Presentations B、Business Writing B、Discussing Current Issues B、Newspaper English B、In-Depth News Listening Bのうちから3年次春学期とは科目名が異なる科目を計2科目4単位を履修しなければならない。そのため合計4科目8単位を履修しなければならない。

〈英語コミュニケーション専門演習科目群〉

3年次において、特殊演習科目から計2科目4単位を履修しなければならない。

加えて、次のいずれかを履修しなければならない。

- ① 3・4年次において、英語コミュニケーション演習科目から、原則として同じ担当者の演習をⅠ～Ⅳについて各1科目ずつ履修し、計4科目8単位を履修しなければならない。且つ4年次に卒業研究または卒業論文のいずれか1科目選択すること。
- ② Registered Credit Course (R.C.C.) を選択する者は、以下のとおり履修すること。(①を履修しない場合)
 1. 3年次に必修になっている英語コミュニケーション英語演習専門科目・特殊演習科目とは別に、3・4年次において同科目（履修済みクラスを除く）からさらに2科目4単位を履修すること。
 2. 特別総合科目群、国際文化交流論科目群、国際文化交流演習科目群、共通基礎科目群、人間・環境系科目群から6科目12単位を履修すること。

〈国際コミュニケーション学科国際関係基礎科目群・地域文化系基礎科目群・英語圏文化基礎科目群〉

国際コミュニケーション学科国際関係基礎科目群・地域文化系基礎科目群・英語圏文化基礎科目群から4科目8単位を履修しなければならない。1・2年次になるべく履修すること。

〈国際コミュニケーション学科国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群〉

2・3・4年次において、国際コミュニケーション学科国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群・英語圏文化専門科目群から4科目8単位を履修しなければならない。

2. 必修・必修選択科目——共通科目

共通科目一覧表の中から、C-3表に示す科目群ごとの規定に従って、18科目計36単位以上を履修しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

3. 自由選択科目

C-3表に示された自由選択科目の中から4科目8単位以上を履修しなければならない。

4. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

5. 教職課程・司書課程・学芸員課程の履修について

各課程のガイダンス等で示される履修指導に従うこと。

C-3表：英語コミュニケーション学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		必 修 科目数 単位		必修選択 科目数 単位		合 計 科目数 単位			
必修・必修 選択科目	専 門 科 目	英語コミュニケーション基礎演習科目群		英語コミュニケーション基礎演習				3	6	①35 ②38	90
				Cultural Exchange		1	2				
				海外研修		1	16				
		英語コミュニケーション英語演習基礎科目群		10	20	1	2				
		国際コミュニケーション学科・国際関係基礎科目群				4	8				
		国際コミュニケーション学科・地域文化系基礎科目群									
		国際コミュニケーション学科・英語圏文化基礎科目群									
		国際コミュニケーション学科・国際関係専門科目群				4	8				
		国際コミュニケーション学科・地域文化系専門科目群									
		国際コミュニケーション学科・英語圏文化専門科目群									
	目	英語コミュニケーション英語演習専門科目群				4	8	18	36		
		英語コミュニケーション専門演習科目群		特殊演習						2	4
				英語コミュニケーション演習		4	8				
		英語コミュニケーション専門演習科目群		卒業研究・卒業論文		1	8				
				英語コミュニケーション英語演習専門科目群						2	4
		英語コミュニケーション専門演習科目群		特殊演習							
		特別総合科目群 国際文化交流論科目群 国際文化交流演習科目群 共通基礎科目群 人間・環境系科目群				6	12				
	共 通 科 目	外国語科目1群		7	14			18	36		
		情報技術科目群		2	4						
日本語表現法科目群				1	2						
特別総合科目群											
国際文化交流論科目群				3	6						
国際文化交流演習科目群											
共通基礎科目群				3	6						
人間・環境系科目群				2	4						
自由選択科目	共通科目	外国語科目2群									
		スポーツ・健康科学演習科目群									
		伝統文化演習科目群									
		生活文化演習科目群									
		社会演習科目群									
		多文化学際科目群									
	共通科目の必修・必修選択科目として必要な36単位を超える共通科目										
	専門他	専門科目として必要な90単位を超える英語コミュニケーション学科の専門科目									
		国際コミュニケーション学科の専門科目 日本文化学科の専門科目 データサイエンス教育プログラム専門科目									
その他	f-Campus提供科目 学習院大学特別聴講科目 国外大学科目（平成29年度設置） 外国語認定科目										
修 得 単 位 数				総計		134単位以上					

①ゼミ選択者 ②R.C.C.選択者

英語コミュニケーション学科履修規定(2015(平成27)年度～2017(平成29)年度入学者)

英語コミュニケーション学科の学生は、後に示す英語コミュニケーション学科履修方法一覧(C-4表)に従って科目を履修し、卒業に必要な単位として総計134単位以上を修得しなければならない。

1. 専門科目

英語コミュニケーション学科の学生は専門科目一覧表の中から、C-4表に示す各科目群ごとに規定に従って、90単位以上を履修しなければならない。

原則として重複履修は認めない。

〈英語コミュニケーション基礎演習科目群〉

1・2年次において、英語コミュニケーション基礎演習Ⅰ、英語コミュニケーション基礎演習Ⅱ、英語コミュニケーション基礎演習Ⅲまたは英語コミュニケーション基礎演習Ⅳ(海外研修Aを履修する学生は英語コミュニケーション基礎演習Ⅳを、海外研修Bを履修する学生は英語コミュニケーション基礎演習Ⅲを履修すること)をそれぞれ1科目ずつ計3科目と、海外研修(2年次1科目18単位)を履修しなければならない。海外研修Aあるいは海外研修Bの履修についての決定は、1年次秋学期中に各学生に通知するものとする。ただし成績や英語レベルにより、参加が認められない場合もある。なお、海外研修中にレスブリッジ大学で履修するEnglish for Academic Purposes(EAP)以外の科目については、自由選択科目(平成29年度入学者のみ国外大学科目)として1科目を2単位と認める。ただしその上限は3科目6単位とする。

また、海外研修を終えたら、速やかに帰国しなければならない。

英語コミュニケーション学科必修科目である「海外研修」直後の学期の履修登録上限単位数は、「海外研修」の成績(GPA)ではなく、「海外研修」直前の学期の成績(GPA)を基準とする。(海外研修Aに参加する学生は1年次秋学期の成績(GPA)を、海外研修Bに参加する学生は2年次春学期の成績(GPA)が「海外研修」直後の学期の履修登録上限数の基準となる。)

〈英語コミュニケーション英語演習基礎科目群〉

1年次において、TOEIC Basics及びTOEIC Skills、Paragraph Writing及びEssay Writing、Writing Practice及びWriting Skillsの6科目12単位を履修し、2年次において、Academic Writing、Presentations、Listening Practice、Listening Skillsの4科目8単位とDiscussing Global Issuesもしくは、Discussing Business Issuesのいずれか1科目2単位、1・2年次合わせて11科目22単位を履修しなければならない。

※TOEIC Basics及びTOEIC Skillsについては技能審査としてTOEIC Listening & Reading Testのスコアにより単位が認定されるので、有資格者は履修要項(単位認定)規定に従って手続きをすること。

(TOEIC Basics: 700点以上、TOEIC Skills: 750点以上)

〈英語コミュニケーション英語演習専門科目群〉

3年次春学期において、Debate A、Business Presentations A、Business Writing A、Discussing Current Issues A、Newspaper English A、In-Depth News Listening Aのうちから計2科目4単位を履修しなければならない。

加えて3年次秋学期において、Debate B、Business Presentations B、Business Writing B、Discussing Current Issues B、Newspaper English B、In-Depth News Listening Bのうちから3年次春学期とは科目名が異なる科目を計2科目4単位を履修しなければならない。そのため合計4科目8単位を履修しなければならない。

〈英語コミュニケーション専門演習科目群〉

3年次において、特殊演習科目から計2科目4単位を履修しなければならない。

加えて、次のいずれかを履修しなければならない。

- ① 3・4年次において、英語コミュニケーション演習科目から、原則として同じ担当者の演習をⅠ～Ⅳについて各1科目ずつ履修し、計4科目8単位を履修しなければならない。且つ4年次に卒業研究または卒業論文のいずれか1科目選択すること。
- ② Registered Credit Course (R.C.C.) を選択する者は、以下のとおり履修すること。(①を履修しない場合)
 1. 3年次に必修になっている英語コミュニケーション英語演習専門科目・特殊演習科目とは別に、3・4年次において同科目（履修済みクラスを除く）からさらに2科目4単位を履修すること。
 2. 特別総合科目群、国際文化交流論科目群、国際文化交流演習科目群、共通基礎科目群、人間・環境系科目群から6科目12単位を履修すること。

〈国際コミュニケーション学科国際関係基礎科目群・地域文化系基礎科目群〉

国際コミュニケーション学科国際関係基礎科目群・地域文化系基礎科目群から4科目8単位を履修しなければならない。1・2年次になるべく履修すること。

〈国際コミュニケーション学科国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群〉

2・3・4年次において、国際コミュニケーション学科国際関係専門科目群・地域文化系専門科目群から4科目8単位を履修しなければならない。

2. 共通科目

共通科目一覧表の中から、C-4表に示す科目群ごとの規定に従って、18科目計36単位以上を履修しなければならない。詳細は共通科目のページを参照すること。

3. 随意科目

履修し単位を修得することはできるが、修得した単位を卒業に必要な単位数に算入することができない科目をいう。

4. 自由選択科目

C-4表に示された自由選択科目の中から4科目8単位以上を履修しなければならない。

C-4表：英語コミュニケーション学科履修方法一覧

区 分		科 目 群 名		必 修 科目数 単位		必修選択 科目数 単位		合 計 科目数 単位						
必修・必修 選択科目	専 門 科 目	英語コミュニケーション基礎演習科目群		英語コミュニケーション基礎演習				3	6	①34 ②37	90			
				海外研修		1	18							
		英語コミュニケーション英語演習基礎科目群		10	20	1	2							
		国際コミュニケーション学科国際関係基礎科目群				4	8							
		国際コミュニケーション学科地域文化系基礎科目群												
		国際コミュニケーション学科国際関係専門科目群				4	8							
		国際コミュニケーション学科地域文化系専門科目群												
		英語コミュニケーション英語演習専門科目群				4	8							
		英語コミュニケーション専門演習科目群		特殊演習				2	4					
		①	英語コミュニケーション専門演習科目群		英語コミュニケーション演習		4	8						
					卒業研究・卒業論文		1	8						
		②	英語コミュニケーション英語演習専門科目群						2			4		
					英語コミュニケーション専門演習科目群		特殊演習							
			特別総合科目群											
			国際文化交流論科目群						6			12		
			国際文化交流演習科目群											
			共通基礎科目群											
		人間・環境系科目群												
		共 通 科 目	共 通 科 目	外国語科目1群		7	14							18
情報技術科目群				2	4									
日本語表現法科目群								1	2					
特別総合科目群														
国際文化交流論科目群								3	6					
国際文化交流演習科目群														
共通基礎科目群								3	6					
人間・環境系科目群						2	4							
自由選択科目	共 通 科 目	外国語科目2群												
		スポーツ・健康科学演習科目群												
		伝統文化演習科目群												
		生活文化演習科目群												
		社会演習科目群												
		多文化学際科目群												
	共通科目の必修・必修選択科目として必要な36単位を超える共通科目													
	専 門 他	専門科目として必要な90単位を超える英語コミュニケーション学科の専門科目												
		国際コミュニケーション学科の専門科目												
	そ の 他	日本文化学科の専門科目												
データサイエンス教育プログラム専門科目														
そ の 他	f-Campus提供科目													
	学習院大学特別聴講科目													
	国外大学科目（平成29年度設置）													
	外国語認定科目													
修 得 単 位 数				総計				134単位以上						

①ゼミ選択者 ②R.C.C.選択者

共 通 科 目

2023（令和5）年度共通科目の変更について

1. 「データサイエンス教育プログラム」の新設

2023（令和5）年度より「データサイエンス教育プログラム」が設置されます。このプログラムはデータサイエンスの基礎と応用を体系だって学ぶもので、全学科の希望する学生が履修することができます（276頁参照）。

「データサイエンス教育プログラム」の新設に伴い「情報処理Ⅰ～Ⅳ」の科目が以下の通り変更となります。

2022（令和4）年度以前入学者は、履修の際は新科目名で登録されますが、履修後に旧科目名に読み替えられます。

※履修登録や時間割は新科目名で表示されます。（共通科目一覧参照）

変更前【2022（令和4）年度以前入学者】	変更後【2023（令和5）年度以降入学者】
授業科目	授業科目
情報処理Ⅰ（コンピュータ入門）	情報リテラシー
情報処理Ⅱ（コンピュータ基礎）	表計算ツールとデータ分析
情報処理Ⅲ（コンピュータ応用）	デジタルコンテンツ制作
情報処理Ⅳ（コンピュータ応用）	プログラミング

以下の科目から合計6科目12単位修得した者に、卒業時に修了証を与えます。（「データサイエンス教育プログラム履修規定」参照）

2022（令和4）年度以前に修得済みの「情報処理Ⅰ～Ⅳ」についても、修了に必要な単位として認められます。

	科目群	授業科目
必修科目	情報技術科目群	情報リテラシー（旧：情報処理Ⅰ）
	情報技術科目群	表計算ツールとデータ分析（旧：情報処理Ⅱ）
	データサイエンス教育プログラム専門科目	【新設】データサイエンス・AI基礎
選択必修科目	情報技術科目群	デジタルコンテンツ制作（旧：情報処理Ⅲ）
	情報技術科目群	プログラミング（旧：情報処理Ⅳ）
	データサイエンス教育プログラム専門科目	【新設】データサイエンス・AI演習
	共通基礎科目群	基礎統計学
	情報技術科目群	社会調査法

2. 「多文化学際科目群」の新設

2023（令和5）年度より以下の通り「多文化学際科目群」が設置されます。

2022（令和4）年度以前入学者は、旧科目から変更となった科目について、履修の際は新科目名で登録されますが、履修後に旧科目名に読み替えられ、旧科目群へ算入されます。

新設科目は自由選択科目へ算入されます。（卒業に必要な単位に含める）

※履修登録や時間割は新科目名で表示されます。（共通科目一覧参照）

変更前【2022（令和4）年度以前入学者】		変更後【2023（令和5）年度以降入学者】	
科目群	授業科目	科目群	授業科目
特別総合科目群	特別総合科目Ⅳ (英語で学ぶ現代日本)	多文化学際科目群	多文化学際科目Ⅰ (英語で学ぶ現代日本)
			【新設】多文化学際科目Ⅱ (日本研究のトピックス)
			【新設】多文化学際科目Ⅲ (地域活性化とSDGs)
国際文化交流論科目群	国際文化交流論Ⅴ (ジェンダー・スタディーズ)		多文化学際科目Ⅳ (ジェンダー・スタディーズ)
特別総合科目群	特別総合科目Ⅷ (現代時事分析)		多文化学際科目Ⅴ (現代時事分析)
特別総合科目群	特別総合科目Ⅱ (指標による国際比較)		多文化学際科目Ⅵ (指標による国際比較)
国際文化交流論科目群	国際文化交流論Ⅹ (環太平洋地域 1)		多文化学際科目Ⅶ (環太平洋地域 1)
国際文化交流論科目群	国際文化交流論ⅩⅠ (環太平洋地域 2)		多文化学際科目Ⅷ (環太平洋地域 2)
			【新設】多文化学際科目Ⅸ (東アジア地域)

3. 「インディペンデント・スタディ（課題研究）」について

社会演習科目群の「インディペンデント・スタディ（課題研究）」が新規に開講します。

2年次秋学期に履修可能ですが、前述の「多文化学際科目群」のいずれか1科目を修得済みであることが前提となります。履修希望者は多文化学際科目群の科目を2年次春学期終了※までに履修してください。2022（令和4）年度以前に旧科目名の科目を修得済みの場合も履修可能です。履修方法の詳細はG-Portにてお知らせします。

本科目は自由選択科目へ算入されます。（卒業に必要な単位に含める）

※2023（令和5）年度は2年次秋学期に同時に履修することも可とする。

共 通 科 目 (2018 (平成30) 年度以降入学者)

共通科目は、学科ごとに定められた単位数以上を修得しなければならない。なお、共通科目の履修方法は各学科により異なるので、詳細については所属するそれぞれの学科の欄を参照すること。

共通科目履修上の注意 (全学科)

原則として重複履修は認めない。ローマ数字までが科目名となり、同一科目名の重複履修は認められない。なお、履修希望者が特定の科目に集中した場合、履修制限することがある。その他、各学科履修規定の表に示す各科目群の規定に従い、所定の単位を修得しなければならないので、注意して履修すること。

外国語科目 1 群

- (1) BASIC LISTENING、NEWS LISTENING、BASIC READING、READING & WRITING、SPEAKING PRACTICE、SPEAKING SKILLS、INTENSIVE READING & WRITINGの 7 科目14単位が必修である。日本文化学科・国際コミュニケーション学科の学生は、2 年次においてSPEAKING PRACTICE、SPEAKING SKILLS、INTENSIVE READING & WRITINGを履修するために下記の条件を充たさなければならない。

下記の時期に実施されるTOEIC IP(費用は大学が負担)を受験していること。

- 1 年次秋学期 (12月ごろ実施予定)

対象科目：SPEAKING PRACTICE 及 び INTENSIVE READING & WRITING

- 2 年次秋学期 (9 月ごろ実施予定)

対象科目：SPEAKING SKILLS

※上記条件を充たさなかった場合は、当該科目の履修が認められないので注意すること。

※テスト実施や履修についての詳細は、G-PortとLL科目の掲示板にて通知する。

- (2) 同一科目を時間割に従い、週 2 回履修しなければならない。
- (3) それぞれの科目は、配当年次が指定されているので注意すること。

外国語科目 2 群

- (1) 外国語科目 2 群は、英語以外の外国語 (フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、中国語、韓国語及び日本語) である。原則として母語の履修は認めない。
- (2) 原則として基礎 I 及び II の単位を修得した者のみ応用を履修できる。
- (3) 原則として科目のローマ数字順に履修すること。日本語については、留学生の授業のため担当教員の指示に従うこと。
- (4) 同一科目を時間割に従い、週 2 回履修しなければならない。

情報技術科目群	(1) 原則として、情報リテラシー（旧：情報処理Ⅰ）と表計算ツールとデータ分析（旧：情報処理Ⅱ）を履修すること。 ※英語コミュニケーション学科の学生は1年次に情報リテラシー、表計算ツールとデータ分析の2科目、計4単位を履修すること。 (2) プログラミング(旧:情報処理Ⅳ)、デジタルコンテンツ制作(旧:情報処理Ⅲ)、社会調査法は、パソコンの基本操作ができることが履修の前提になる。履修にあたっては、シラバスをよく読み、最初の授業で担当教員の確認を受けること。
日本語表現法科目群	日本語表現法ⅠまたはⅡのいずれか1科目を履修すること。1、2年次に履修することが望ましい。 <u>教員免許（中一種（国語））・（高一種（国語））の取得を目指す学生は日本語表現法Ⅲを履修すること。※日本語表現法Ⅲは教職課程履修者のみ履修可。</u>
スポーツ・健康科学演習科目群	<u>教員免許の取得を目指す学生はスポーツ・健康科学演習ⅠまたはⅡのいずれか1科目を履修すること。</u>
伝統文化演習科目群	<u>教員免許（中一種（国語））の取得を目指す学生は伝統文化演習ⅠB（書道）またはⅡB（書道）のいずれか1科目を履修すること。</u>

共通科目 (2013 (平成25) 年度～ 2017 (平成29) 年度入学者)

共通科目は、学科ごとに定められた単位数以上を修得しなければならない。なお、共通科目の履修方法は各学科により異なるので、詳細については所属するそれぞれの学科の欄を参照すること。

共通科目履修上の注意 (全学科)

原則として重複履修は認めない。ローマ数字までが科目名となり、同一科目名の重複履修は認められない。なお、履修希望者が特定の科目に集中した場合、履修制限することがある。その他、各学科履修規定の表に示す各科目群の規定に従い、所定の単位を修得しなければならないので、注意して履修すること。

外国語科目 1 群

- (1) BASIC LISTENING、NEWS LISTENING、BASIC READING、READING & WRITING、SPEAKING PRACTICE、SPEAKING SKILLS、INTENSIVE READING & WRITINGの 7 科目14単位が必修である。日本文化学科・国際コミュニケーション学科の学生は、2 年次においてSPEAKING PRACTICE、SPEAKING SKILLS、INTENSIVE READING & WRITINGを履修するために下記の条件を充たさなければならない。

下記の時期に実施されるTOEIC IP(費用は大学が負担)を受験していること。

- 1 年次秋学期 (12 月ごろ実施予定)

対象科目：SPEAKING PRACTICE 及び INTENSIVE READING & WRITING

- 2 年次秋学期 (9 月ごろ実施予定)

対象科目：SPEAKING SKILLS

※上記条件を充たさなかった場合は、当該科目の履修が認められないので注意すること。

※テスト実施や履修についての詳細は、G-PortとLL科目の掲示板にて通知する。

- (2) 同一科目を時間割に従い、週 2 回履修しなければならない。
- (3) それぞれの科目は、配当年次が指定されているので注意すること。

外国語科目 2 群

- (1) 外国語科目 2 群は、英語以外の外国語（フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、中国語、韓国語及び日本語）である。原則として母語の履修は認めない。
- (2) 原則として基礎 I 及び II の単位を修得した者のみ応用を履修できる。
- (3) 原則として科目のローマ数字順に履修すること。日本語については、留学生の授業のため担当教員の指示に従うこと。
- (4) 同一科目を時間割に従い、週 2 回履修しなければならない。

- 情報技術科目群
- (1) 原則として、情報リテラシー（旧：情報処理Ⅰ）と表計算ツールとデータ分析（旧：情報処理Ⅱ）を履修すること。
※英語コミュニケーション学科の学生は1年次に情報リテラシー、表計算ツールとデータ分析の2科目、計4単位を履修すること。
- (2) プログラミング(旧:情報処理Ⅳ)、デジタルコンテンツ制作(旧:情報処理Ⅲ)、社会調査法は、パソコンの基本操作ができることが履修の前提になる。履修にあたっては、講義内容をよく読み、最初の授業で担当教員の確認を受けること。
- 日本語表現法科目群
- 日本語表現法ⅠまたはⅡのいずれか1科目を履修すること。1、2年次に履修することが望ましい。
※国際コミュニケーション学科の学生は平成27年度以降入学者が必修となる。
日本語表現法Ⅲは履修不可。

教 職 課 程
司 書 課 程
学 芸 員 課 程
日本語教員養成講座
データサイエンス教育プログラム

データサイエンス教育プログラム履修規定

本学ではデータサイエンス教育プログラムを置く。データサイエンス教育プログラム科目から下記の規定に従って必要単位数以上を修得した場合、卒業時にデータサイエンス教育プログラム修了証を発行する。なお、データサイエンス教育プログラム専門科目は自由選択科目として、卒業に必要な単位に算入される。

2023（令和5）年度授業科目及び担当者

	科目群	授業科目	単位	履修年次	履修単位	学期		担当者
必修科目	情報技術科目群	情報リテラシー または情報処理I※	2	1～	3 科目 6 単位	春		清水 將吾他
	情報技術科目群	表計算ツールとデータ分析 または情報処理II※	2	1～			秋	清水 將吾他
	データサイエンス 教育プログラム専門科目	データサイエンス・AI基礎	2	1～		春		丸山 信人
選択必修科目	情報技術科目群	プログラミング または情報処理IV※	2	1～	3 科目 6 単位 以上	春		清水 將吾
	情報技術科目群	デジタルコンテンツ制作 または情報処理III※	2	1～			秋	丸山 信人
	データサイエンス 教育プログラム専門科目	データサイエンス・AI演習	2	1～			秋	清水 將吾
	共通基礎科目群	基礎統計学	2	1～		春		竹内 俊子
	情報技術科目群	社会調査法	2	1～			秋	本柳 亨
計6科目12単位以上								

※2022（令和4）年度以前の科目名。2022（令和4）年度以前に修得済みの「情報処理I～IV」についても、修了に必要な単位として認められる。

改正 平成13年4月1日

平成18年4月1日

平成25年4月1日

（目的）

第1条 この規程は、学習院女子大学教務委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

（任務）

第2条 委員会は、学習院女子大学（以下「本学」という。）における次の事項を審議する。

- 一 本学の授業科目全般の管理運営及び計画に関する事項
- 二 科目担当者の人事に関する事項
- 三 授業運営のために必要な予算に関する事項
- 四 その他、委員会が必要と認めた事項

（組織）

第3条 委員会は、教務部長、各学科から選出された委員各1名及び教務部長が指名する委員2名をもって組織する。

2 委員長は、教務部長がその任にあたる。

3 委員は、本学教授会（以下「教授会」という。）の議を経て、学長が委嘱する。

（任期）

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（運営）

第5条 委員会は、委員長が招集し、司会する。また、必要に応じ委員以外の本学教職員の出席を求め意見を徴することができる。

（事務）

第6条 委員会の事務は、本学教務部が行う。

（改正）

第7条 この規程の改正は、教授会の議を経て行う。

附 則

1 この規程は、平成10年4月1日から施行する。

2 この規程の施行日において各学科から選出されて委員となる者のうち1名の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず1年とする。

附 則

1 この規程は、平成13年4月1日から施行する。

2 学習院女子大学共通科目委員会規程（平成10年4月1日施行）は廃止する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

改正 平成13年4月1日

平成18年4月1日

平成25年4月1日

（目的）

第1条 この規程は、学習院女子大学教務委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

（任務）

第2条 委員会は、学習院女子大学（以下「本学」という。）における次の事項を審議する。

- 一 本学の授業科目全般の管理運営及び計画に関する事項
- 二 科目担当者の人事に関する事項
- 三 授業運営のために必要な予算に関する事項
- 四 その他、委員会が必要と認めた事項

（組織）

第3条 委員会は、教務部長、各学科から選出された委員各1名及び教務部長が指名する委員2名をもって組織する。

2 委員長は、教務部長がその任にあたる。

3 委員は、本学教授会（以下「教授会」という。）の議を経て、学長が委嘱する。

（任期）

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（運営）

第5条 委員会は、委員長が招集し、司会する。また、必要に応じ委員以外の本学教職員の出席を求め意見を徴することができる。

（事務）

第6条 委員会の事務は、本学教務部が行う。

（改正）

第7条 この規程の改正は、教授会の議を経て行う。

附 則

1 この規程は、平成10年4月1日から施行する。

2 この規程の施行日において各学科から選出されて委員となる者のうち1名の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず1年とする。

附 則

1 この規程は、平成13年4月1日から施行する。

2 学習院女子大学共通科目委員会規程（平成10年4月1日施行）は廃止する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

大学等名	学習院女子大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	データサイエンス教育プログラム	申請年度	令和6年度

【取組概要】

○本プログラムの目的

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活や仕事の間等で使いこなすことができる基礎的知識を身につけることを目的とする。学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、主体的にそこから新たな知見を引き出し活用できるようになること、また、これらを扱う際には人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し活用できるようになることを目的とする。

○身に付けられる能力

データサイエンスを学ぶことの楽しさを知り、理解を深め、使いこなすことのできる力を育成する。情報学や統計学をもとに、その融合領域における学びで、実践を交えながらデータを読み解き、分析する手法を学び、様々な分野においてデータ活用とAIの利活用の視点をもてるよう能力を身に付け、また、「情報処理力」だけでなく、「情報編集力」及び「新しい価値を創りだす実践的な能力」を身に付けることを目標とする。

○開講されている科目の構成

【必修科目】

情報リテラシー(情報処理I※)/表計算ツールとデータ分析
(情報処理II※)/データサイエンス・AI基礎

【選択必修科目】

プログラミング(情報処理IV※)/デジタルコンテンツ制作 (情報処理III※)
/データサイエンス・AI演習/基礎統計学/社会調査法
(※は、令和4年度以前の入学者の科目名)

○修了要件

上記データサイエンス教育プログラム科目から、必修科目の3科目6単位、選択必修科目の中から3科目6単位以上、合計6科目12単位以上を取得すること。

※本プログラムは、令和5年度から開始しているが、令和4年度以前の入学者にも※の科目名については読み替えて履修を認定する。

○実施体制

「データサイエンス教育プログラム」の専任教員が、授業時間外のオフィスアワー及びメール窓口を設けて、随時、学習指導・質問を受け付けている。また、本プログラムは、すべて、大学内のLMSを利用しており、そこからも、質問を受け付けて、確認・回答ができる体制で取り組んでいる。同時に、常設されている情報サポートセンターで、随時、情報科目司書が、質問を受け付けることができる体制を整えている。

